改訂：2014/11/23

Web Pa

第77号

今月のフェアリー詰将棋

- 第 67 回 WFP フェアリー作品展（再掲）
- 第 68 回 WFP フェアリー作品展
- 第 83 回推理将棋出題
- 第 84 回推理将棋出題
- Fairy of the Forest #41（再掲）
- くるくる作品展 1

結果発表

- 第 66 回 WFP フェアリー作品展
- 第 82 回推理将棋出題
- 禁欲ばか詰作品展（たくぼん）

2014/1

はじめに

2014年

寒くなりましたね。今年もあと1ヶ月とちょっとです。早いなあ。自分がこの1年何かの足跡を残したのか考えてみても何も･･･ない。寂しい限りです。

ところがたくぼん家となると事情が違います。今年前半は何事も無く････過ぎましたが後半に入ると一挙に動き出しました。

まずこれまで彼女の一人の話も聞いたことがなかった長男が突然の交際宣言→結婚(8月)そして奥さん妊娠判明して現在たくぼん家に同居。おまけにお相手が台湾の方でたくぼん家大騒動････昨年こちらに留学している時に大阪で知り合ったとかでまさにあっと言う間です。

まあ何とか落ち着いたかという所で、娘から連絡が･･･。結婚するんで彼氏と11月2日に挨拶に帰省するから。うむこの日は詰備会の日(悲)。何でも娘の会社の寮を期限が来たので出ないといけないので、めんどくさいので二人で住もうということに。それにはとりあえず籍だけはいれとこうかと･･･

そんなこんなであっという間に子供が結婚、来年には孫誕生となりそうです。激動の半年！！

おまけ

東京旅行の1幕。スカイツリー足元のタルトのおいしい店に入りました。1つずつ注文してしばらく待っていましたがなかなか出てきません。二人でスマホをいじっていたのでそんなに待った気はしていなかったのですが、顔を上げた時、店員さんと目が合いました。すると店員さんは「あっ！」という顔をして厨房へ･･しばらくするとタルトが倍になってテーブルにやってきました。「お待たせしたお詫びです。」そんなにお腹が空いていた訳でもなく結構ボリュームがあって大変でした。良かったのかどうなのか･･･(笑)

(キルフェボンの W タルト)

【募集】

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことでも研究物でも４コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト１０、自己紹介、何でもOK です。

感想

第７７号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん：takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々の HP アドレス

*ご協力感謝します

妖精都市

http://www.geocities.jp/cavesfairy/

詰将棋メモ

http://toybox.tea-nifty.com/

詰将棋おもちゃ箱

http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/

Onsite Fairy Mate

http://www.abz.jp/~k7ro/

K.Komine's Home Page

http://19900504.web.fc2.com/index.html

第67回WFP作品展(再掲)及び第68回WFP作品展

担当：神無七郎

Worst1.exe が「最善詰」（駒余りに関係なく攻方最短・受方最長の手順を求める）に対応したので、前々から気になっていたことを確かめることにしました。それは「大矢数巻頭番外の馬鋸作品は本当に 391 手か？」です。

この作は馬鋸に対する歩の捨合を無駄合として省略すると 85 手、省略しないと 391 手とされてきました。ただ、捨合を省略しない場合は歩を余分に持つので、どこかで早詰を生じてもおかしくありません。実際、調べてみると以下の 377 手の早詰が見つかりました。

作者不知（无住僊良？）
象戯大矢数／元禄 10（1697）年
歩の捨合を省略しない場合の最短解

詰将棋 391手？

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	玉		馬		龍				一
		歩					銀		二
銀	銀				杏				三
金									四
	龍	金							五
		桂							六
		香		全			桂		七
	桂			金	王	香			八
						馬			九

持駒 なし

72 馬 91 玉「73 馬 81 玉 63 馬 91 玉
64 馬 81 玉 54 馬 91 玉 55 馬 81 玉
45 馬 91 玉 46 馬 81 玉 36 馬 72 歩
同馬 91 玉」×17
73 馬 81 玉 63 馬 91 玉 64 馬 81 玉
54 馬 91 玉 55 馬 81 玉 45 馬 91 玉
46 馬 81 玉 36 馬 91 玉 37 馬 81 玉
27 馬 91 玉 37 馬 81 玉 36 馬 91 玉
46 馬 81 玉 45 馬 91 玉 55 馬 81 玉
54 馬 91 玉 64 馬 81 玉 63 馬 91 玉
73 馬 81 玉 72 銀生 92 玉 84 桂打 同龍
同桂 同金 91 飛 同龍 同馬 同玉
61 飛 82 玉 81 飛成 73 玉 75 香 64 玉
61 龍 55 玉 46 金 同玉 66 龍 45 玉
46 歩 54 玉 **63 銀生** 43 玉 33 銀成 53 玉
54 歩 44 玉 34 全 まで 377 手

従来の 391 手解では 371 手目 57 龍として、捨合を省略する場合と同じように詰めていたのですが、歩が 1 枚でも余分に加われば、今回検出された 63 銀不成が成立します。

さてここまでは単に事実の報告ですが、問題はこれをどう解釈するかです。これは捨合を省略する 85 手が作意だったという説を補強するようにも見えますが、この「377 手が作意」という可能性はないでしょうか？

というのも、捨合を省略した 85 手解は非限定や迂回などの乱れがあり、「作意」というより「とりあえず詰む変化」のように思えるのです。また、初形も馬鋸に必要な 72 歩以外の歩の配置を避け、できるだけ多く「歩合をさせたい」という意図を感じさせます。（例えば 43 成香がなぜ「43 と」でないか考えてみてください。）

もし作者が「駒余りに関係なく攻方最短・受方最長の手順を正解とする」前提で作っていたらどうでしょう？ この 377 手解で手順の乱れが一掃され、85 手解では陰の薄かった 22 銀にも活躍の場が与えられます。作者が「攻方最短」を明確に意識していたかどうかは怪しいですが、「手余り許容」は確実に意識していたでしょう。歩合を避けるのではなく、歩合をさせる作だと考える方が、色々辻褄が合うのです。本作が「番外」として収録された理由が「無駄合」の解釈に関わるものではなく、「手余り許容」に関わるものだった可能性を、きちんと再検討した方が良いと私は思います。

この作品は解答が伝わっておらず、作者が誰かも、いつ作られた物かも分かっていません。作者に答えを聞くことができず、推測を重ねるしかないのは困ったことですが、「情報不足」のおかげで、様々な想像を膨らませることができるのも古図式の面白い所だと思います。

さて、古図式の世界から現代に戻りましょう。

今回は第 67 回分の再掲と、第 68 回分の新規出題です。「第 41 回神無一族の氾濫」の執筆と重なる関係で、次回の新規出題は年明けで、第 68 回の解答締切も 2 月 15 日になります。

解答募集期間が長いといっても、油断は禁物。年が明けたら年賀詰の大量出題で時間不足になる可能性もあります。解図作業は計画的に！

〔第 67 回作品展各題への補足説明〕（再掲）

第 67 回の出題は全 12 題。ただし、**67-8** はツインですので、実質は 13 題です。一桁手数の作が多いので、解き易そうな作から着手してください。

67-1 と **67-2** は上谷直希氏の短編協力詰。本作品展にもとっつきやすい作が欲しいというリクエストに応えて送ってくださった作品です。送られてきたのは４作ですが、今月はまず２題。残り２題は次回に出題する予定です。新ルールや複合ルールはどうも…という方はこの２題だけでも解いてください。

67-3～**67-5** は占魚亭氏による複合ルール作品。氏はブログ「占魚亭残日録」（http://d.hatena.ne.jp/sengyotei/）で投稿に至らなかった作品を披露されており、解図の参考になる情報があるかもしれません。複数の性能変化系ルールが合成されている場合は、適用順序が問題になりますが、本作品展では適用順にルール名を並べています。例えば **67-5** の「背面マドラシ」では先に「背面」が適用され、背面で変化した利きを前提として「マドラシ」が適用されます。

67-6～**67-11** は変寝夢氏のミニ個展。投稿順に並んでいるので、難易度とは一致しません。以下は個々の作品に関する注釈です。

67-6 と **67-7** は Imitator という他の駒の動きに追随する特殊駒を使った作品です。Imitator が番外に出たり、盤上の駒と衝突したりする手は禁じられるので、それを前提とした詰手順を求めてください。作者自身による Imitator に関する紹介記事が WFP75 号に載っているので、まずはその記事を読むと良いでしょう。この駒を「摸」などの漢字で表記しても良いのですが、この記事で「■」が使われていたので、今回の出題でも Imitator は■で表しました。**67-6** は受方持駒制限に気をつけてください。

67-8 はＰＷＣと中立駒の組み合わせ。ＰＷＣは「駒取り」が「位置交換」に変更されるルールなので、中立駒が「現手番側の駒を取れない」という規則をＰＷＣに適用すると「現手番の駒と位置の交換ができない」という規則へ再解釈されることになります。ナイトライダーが使われていて厄介ですが、これ１枚だけでは詰められないことや、受方持駒制限により合駒がないことを考慮すれば、詰上り型も見えてくると思います。

67-9～**67-11** は作者が追加で投稿されたもの。中立駒とナイトライダーに慣れるためにも、この３作を先に解き、その後で **67-8** に取り組むのがお勧めです。

67-12 は今回の出題のトリを務める一乗谷酔象氏の作品。何でも「同」と取る「堂々巡り」問題のバリエーションです。今回は後手が 10 手目から「同角」しか指さないという縛りが掛けられていますが、本当にそれですべての駒を取ることが可能なのでしょうか？ 実際に解いて確かめてみてください。

〔第 68 回作品展各題への補足説明〕

第 68 回の出題は全 10 題。解答募集期間が長いのでできるだけ多くの正解を狙ってください。

68-1 と **68-2** は前回に続き、上谷直希氏の短編協力詰。フェアリーの原点に立ち返るような解答者に優しい作品です。「WFP は妙なルールの作が多くて困る」という方も、この２題はぜひ解いてください。

68-3 も上谷氏の作品ですが、こちらは「禁欲」と「打歩」の２つの条件が付き、ちょっと凝った手順が必要です。どうやったら、打歩詰を実現するための歩を手に入れられるか、作者の狙いを見抜いてください。

68-4～**68-9** は変寝夢氏による個性的なルールや駒を使った作品群。問題設定を見ただけで白旗を上げる前に、試しに解いてみてください。きっと難度は控え目だと思います。以下は個々の作品に関する補足です。

68-4 は攻方の持駒にナイトライダー（夜）があります。この１枚以外は標準の駒数ですので、受方持駒は「残り全部」です。果たしてどの駒を入手するのでしょうか？　「背面」ルールも付いているので忘れずに。

68-5 も攻方の持駒にナイトライダーがありますが受方持駒は「なし」となっているので、持駒のナイトライダーと盤上の駒だけで詰めてください。こちらには「背面」ルールは付いていませんが、**68-4** より紛れが多そうなので、順序を後ろにしています。

68-6 は持駒に Lion（鬣）がありますが、本作品展でも Lion は何度か登場しているので、そろそろ慣れてきたのではないでしょうか？ 本局でも受方持駒は「残り全部」ですので、合駒を読んでください。

68-7 で登場する Leo は本作品展では初登場。Lion と紛らわしいですが、これは中国象棋の Pao（包）の変種です。Pao が飛の動きを基本とするのに対し、Leo はクィーンの動きを基本に

します。つまり、駒を取らないときはクィーンそのもの、駒を取るときはクィーンの方向に1枚だけ駒を跳び越えてから取ります。駒の表記は迷いましたが、今回の出題では Pao と同じ「包」を使っています。今後も Pao の変種が出た場合は、「包」やそれに似た字で、注釈を別途付けて何の駒か表したいと思います。本局は手数こそやや長めですが、受方持駒が「なし」なので、解図の方針は立てやすいと思います。

68-8 と **68-9** は前回の作品展で登場した Imitator という特殊駒を使った作品です。**68-8** は受方持駒が「残り全部」、**68-9** は受方持駒が「なし」なので、手順の味わいはかなり異なります。言うまでもありませんが、**68-9** は「12 金まで 1 手」ではありません。12 金には 75 龍[I71]とする受けがあるのです。詳しくは WFP75 号掲載の Imitator の紹介記事をお読みください。

68-10 は前回に引き続いて一乗谷酔象氏による「威風堂々」シリーズの一作。今度は何でも「同飛」と取って駒を取り尽くすという条件設定です。ちなみに「同飛車大学」はもちろん某公共放送の某将棋番組で講師を務めている某棋士お得意のフレーズの一つ。せっかくですので、解図された方はぜひ駄洒落入りの短評をお願いします。

解答要項

第 67 回分解答締切:2014 年 12 月 15 日(月)
第 68 回分解答締切:2015 年 2 月 15 日(日)
宛先:janacek789@ybb.ne.jp(メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)

作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。(原則として毎月 15 日の投稿まで当月号に掲載します。)宛先は解答と同じ janacek789@ybb.ne.jp へ。メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。機械検討済みなら出力結果のファイル添付を推奨します。

WFP 作品展:年末年始の予定

来年 1 月は「氾濫」結果稿の作成と重なるため、WFP 作品展の 12 月号の新規出題と来年 1 月号の結果稿はお休みさせていただきます。

今後の予定は以下のようになっていますので、あらかじめご承知ください。

	11 月	12 月	1 月	2 月
第 67 回	再掲	結果		
第 68 回	出題	再掲	再掲	結果
第 69 回			出題	再掲
第 70 回				出題

ルール説明

【協力詰】
先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

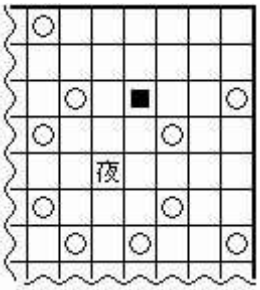
【キルケ】
駒取りがあったとき取られた駒が、最も近い将棋での指し始め位置に戻される
戻り方等は以下の細則に従う
1) 成駒は生駒になって戻る。
2) 戻り位置が埋まっていたり、二歩や行き所の無い駒になったりする場合は戻れない。
3) 駒取り時、駒が戻るまでを一手と見なす。
4) 金銀桂香(成駒も含む)が 5 筋で取られ、複数の戻り先候補がある場合、戻る位置を選択できる。

【Isardam】
同種の敵駒の利きに入る手を禁止する。
玉を取ると同種の敵駒の利きに入る場合は王手とみなさない。(タイプA)

【キルケ Isardam】
キルケ及び Isardam を両方適用する。

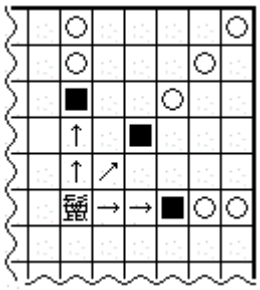
【マドラシ】
同種の敵駒の利きに入ると、利きがなくなる。

【キルケマドラシ】
キルケ及びマドラシを両方適用する。
【背面】
敵駒と背中合わせになったとき、互いに利きが入れ替わる。
【背面マドラシ】
背面とマドラシをこの順に両方適用する。
【協力自玉詰】
先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。
【Imitator】（■）
着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。
→詳細は WFP75 号の「Imitator の紹介」を参照してください。
【ＰＷＣ】
取られた駒は取った駒が元あった場所に復元する。（駒位置の交換となる）
（補足）
・位置交換をすると「行き所のない駒」や「二歩」になる場合は普通に取られて相手の持駒になる
【ナイトライダー】（夜）
フェアリーチェスのナイトライダー。
ナイトの利きの方向に連続飛びができる。



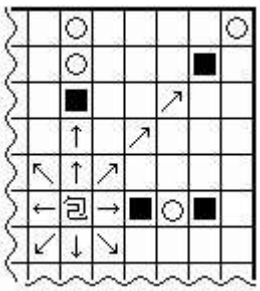
（○がナイトライダーの利き。■に駒があるとそこから先には利かない。）

【中立駒】（「𪜈」あるいは「n 駒」）
どちらの手番でも動かせる駒。
横向きの字か横に n を付加して表記。
→詳細は WFP61 号の「中立駒の紹介」の記事を参照してください。
【推理将棋】
将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。
【禁欲】
駒を取らない手を優先して着手を選ぶ。
【打歩】
打歩詰以外の詰を禁じる。
【Lion】（𪜈）
フェアリーチェスの Lion。
クィーンの利きの方向にある駒を１つ跳び越えその先の任意のマスに着地する。着地点に敵駒があれば取れる。



（○が𪜈の利き。■は敵または味方の駒。○の地点が埋まっていると、その先には跳べない。）

【Leo】（包）
フェアリーチェスの Leo。
中国象棋の Pao の利きの方向をクィーンにしたもの。駒を取らずに動く時はクィーンと同じ。駒を取る時はクィーンの方向に１枚だけ駒を跳び越えて動く。



（矢印が Leo の動く方向。○は Leo が駒を取る時の利き。■は敵または味方の駒。駒を２枚跳び越すことはできない。）

≪第 67 回 WFP 作品展≫（再掲）
解答締切：2014 年 12 月 15 日（土）

■ 67-1　上谷直希氏作

協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
						歩			四
					桂		角	飛	五
					王				六
			馬						七
									八
						桂			九

持駒 銀

■ 67-2　上谷直希氏作

協力詰 17手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
						香	飛		六
				桂	歩	歩		歩	七
					金		王		八
				角	角			香	九

持駒 桂2

■ 67-3　占魚亭氏作

キルケIsardam協力詰 7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				歩					一
									二
					王	飛			三
					飛				四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角

■ 67-4　占魚亭氏作

キルケマドラシ協力詰 9手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
馬									二
						馬			三
									四
					王				五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

■ 67-5　占魚亭氏作

背面マドラシ協力自玉詰 8手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
					王				四
								玉	五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂

■ 67-6　変寝夢氏作

協力詰 3手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
	桂								二
									三
									四
■									五
						馬			六
									七
									八
					香			玉	九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし
※■：Imitator

■ 67-7　変寝夢氏作

協力自玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
									二
									三
									四
									五
									六
							■		七
								王	八
									九

持駒　金

※■：Imitator

■ 67-8　変寝夢氏作

a)　PWC協力詰 9手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
香									三
王									四
									五
									六
角									七
									八
		夜							九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

※夜：ナイトライダー、93香は中立駒

b)　PWC協力詰 9手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
香									三
									四
	王								五
									六
角									七
									八
		夜							九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

※夜：ナイトライダー、93香は中立駒

■ 67-9　変寝夢氏作

協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
						銀		金	六
									七
								王	八
									九

持駒　なし

※16金、36銀は中立駒

■ 67-10　変寝夢氏作

協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
			金						五
									六
									七
									八
							王		九

持駒　n角

※持駒n角は中立駒

■ 67-11　変寝夢氏作

協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			夜				角		一
							王		二
									三
								角	四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒　飛

※夜：ナイトライダー、61夜は中立駒

■ 67-12　一乗谷酔象氏作

推理将棋『威風堂々、斯々然々』

「誇らしげに胸を張ってご機嫌だね。
　なにかいいことあった？」
「たったの 54 手で詰ませて圧勝したよ」
「ホントかい？どんな将棋だった？」
「斯く斯く然々、相手の態度が癪に障ったから、
　全駒で負かせてやった」
「それじゃわかんないよ。
　相手はどんな手を指したんだい？」
「先手は指し手の順番に不思議なこだわりがあって、不成と指した駒を後手に取られたとき、先手の応手は必ず歩を突く手だった。そして、先手が４段目の手を指した次の手では、不成の手を指すことがなかった。そんな指し回しが癪に障ったね」
「それでどうしたんだい」
「10 手目以降、相手が直前に着手した駒をひたすら堂々と取り続けたよ。それも角だけでね」
「相変わらず、強欲な奴だな。抵抗されなかったのかい」
「この将棋、成る手は１回もなかったんだけど、同角不成の手に対しては駒を打たれる応手が１回だけあった。玉頭に駒を打つ手もあったけど駒を打った場所は全部で４カ所だけだったね」

　さて、どんな将棋だったのだろうか？

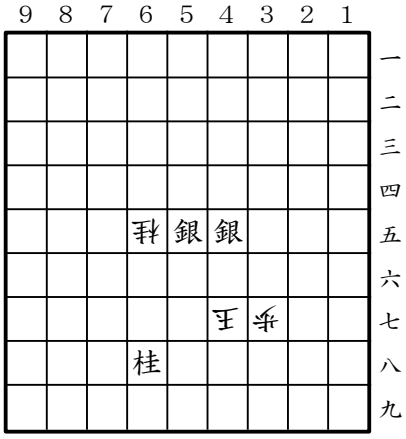
<u>条件</u>

1) 54 手で詰んだ
2) 10 手目以降、後手は「同角」(相手が直前に着手した駒を角で取る手)を連続して指し続けた
3) 先手は、４段目に着手した次の手(2 手後)に不成の手を指すことはなかった
4) 不成で動いた駒を後手に取られたとき、先手の応手は必ず歩突きの手だった
5) 同角不成の手に対する先手の応手には１回だけ駒打ちの手があった
6) 駒打ちの場所は、玉頭を含む４カ所だけだった
7) 成る手はなかった

≪第 68 回 WFP 作品展≫
解答締切：2015 年 2 月 15 日（日）

■ 68-1　上谷直希氏作

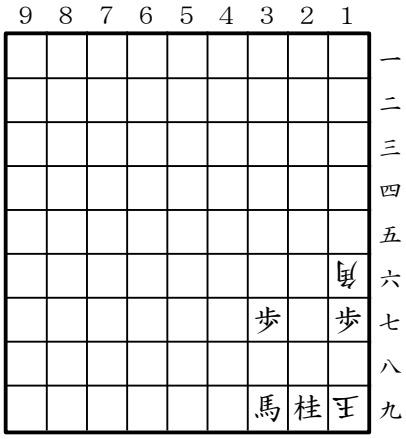
協力詰 11手



持駒 桂2

■ 68-2　上谷直希氏作

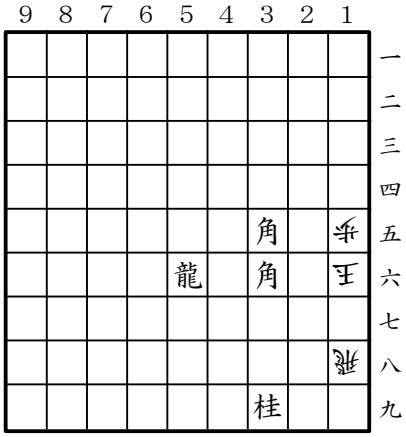
協力詰 11手



持駒 金 桂 香 歩

■ 68-3　上谷直希氏作

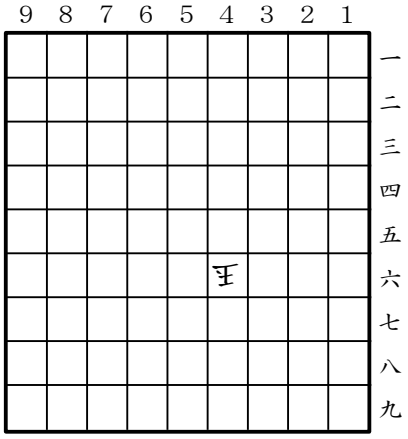
禁欲打歩協力詰 11手



持駒 金

■ 68-4　変寝夢氏作

背面協力詰 5手

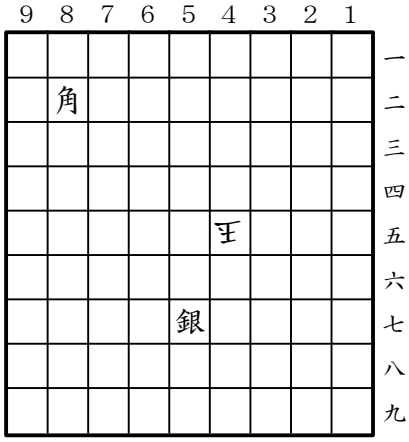


持駒 夜

※夜：ナイトライダー

■ 68-5　変寝夢氏作

協力詰 5手



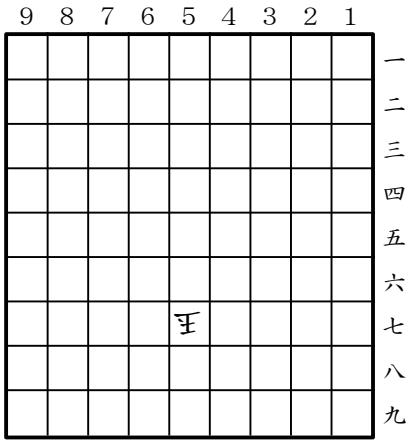
攻方持駒 夜

受方持駒 なし

※夜：ナイトライダー

■ 68-6　変寝夢氏作

協力詰 7手

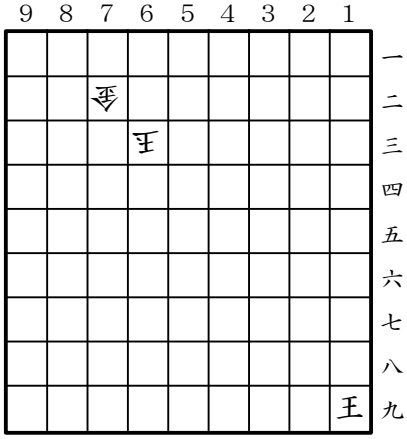


持駒 香鬣

※鬣：Lion

■ 68-7　変寝夢氏作

協力自玉詰 20手



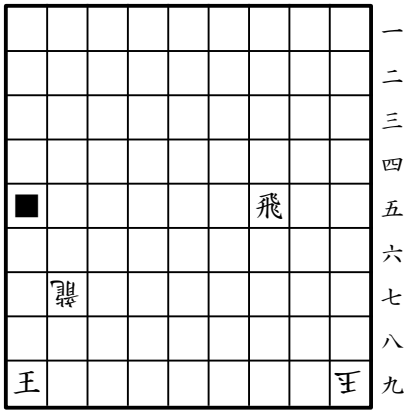
攻方持駒 包

受方持駒 なし

包: Leo（Q利きの包）

■ 68-8　変寝夢氏作

協力自玉詰 4手

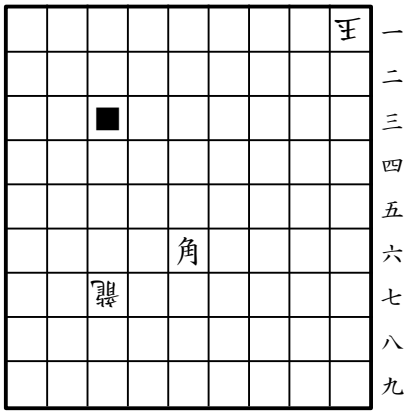


持駒 なし

※■：Imitator

■ 68-9　変寝夢氏作

協力詰 9手



攻方持駒 金

受方持駒 なし

※■：Imitator

■ 68-10　一乗谷酔象氏作

推理将棋『威風堂々、同飛車大学』

「ご機嫌だね。またなんかいいことあった？」
「53 手目に全駒で詰ませて勝っちゃった」
「ホント？ 相手はどんな手を指してきたの？」
「後手は、１筋から６筋まで順番に指す手も含めて１０回連続で歩を突いてきた。それから、６種の駒を各々二連続ずつ続けて指してきたよ」
「なるほど。どんな手で応戦したんだい？」
「９手目以降は、相手が直前に着手した駒をひたすら堂々と取り続けたよ。それも飛車だけでね」
「相変わらず、強欲なやつだな。それから？」
「打った飛車は結局２０回連続して動いたよ。この将棋、成る手は１回もなかったけど、金頭への着手があった。駒を打った場所は全部で５カ所だけだったね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

<u>条件</u>

1) 53 手目で詰んだ
2) 9 手目以降、先手は「同飛」（相手が直前に着手した駒を飛で取る手）を連続して指し続けた
3) 先手は打った飛を 20 回連続して動かした
4) 後手は、１筋から６筋まで順番に指す手を含め 10 回連続して歩を突いた
5) 後手は、６種の駒を各々二連続ずつ続けて着手した
6) 金頭への着手があった
7) 駒打ちの場所は５カ所だけだった
8) 成る手はなかった

以上

推理将棋第８２回出題

担当：NAO

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第８２回出題です。はじめての方は　どんな将棋だったの？ - 推理将棋入門　をごらんください。

解答、感想はメールで２０１４年１０月２０日までにTETSUまで　（omochabako@nifty.com）メールの題名は「推理将棋第８２回解答」でお願いします。解答者全員の中から抽選で１名に賞品リストからどれでも一つご希望のものをプレゼント！　１題でも解けたらぜひご解答ください。

推理将棋の醍醐味の一つは直感を信じてずばっと手順が決まったときに味わえる爽快な解後感です。しかし、カンを信じて漫然と指してみてもなかなか解に近づかない難しい問題も少なくありません。回り道のようでも一つ一つ条件を整理していって手順を絞り込んで理詰めで解くのも案外早く解けるものです。さて、あなたは直感派でしょうか？理詰め派でしょうか？

初級は入門用に９手詰を担当から出題します。直感派の貴方にはすぱっと決めてもらいましょう。
中級は新進気鋭のPontamonさんから１２手詰の姉妹局２作品を出題します。やや長めの手数ですが手順がぐっと絞られてますので、理詰め派にとっては易しめかもしれません。

■本出題

８２-１　初級　ＮＡＯ作
端銀戦法　　９手
端銀が現れる位置を推理しよう。
８２-２　中級　Pontamonさん作
臆病な飛車（A）　　１２手
盤上の駒だけで詰む形を推理しよう。
８２-３　中級　Pontamonさん作
臆病な飛車（B）　　１２手
詰み形を作るための金取りの手を推理しよう。

■締め切り前ヒント　（１０月１３日頃コメント欄に掲載予定　ＮＡＯ）

82-1 初級：7手目に端銀を打って王の逃げ道を塞ぎます。
82-2 中級：とどめの１手は 78 同飛成。最後に銀を取って詰みます。
82-3 中級：とどめの１手は 56 同飛。合駒があると詰まないのでご注意を。

８２-１　初級　ＮＡＯ作
端銀戦法　　９手

「さっきの将棋、不成の手があって９手で詰んだみたいだね」
「ああ、端に銀の手のある珍しい戦型だった。４２地点の着手が２回あったね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

（条件）

・９手で詰んだ
・端（１筋か９筋）に銀の着手があった
・４２地点に２回の着手があった
・不成の着手があった

８２-２　中級　Pontamonさん作
臆病な飛車（A）　　１２手

甲「１２手詰のツイン作品を作ったんだけど、ちょっと見てくれないかな？」
乙「いいよ、どれどれ。手数以外に共通条件が二つだね」

甲「異なっている条件は、A局は『持駒を打つ手はなかった』で、B局は『成る手はなくて、金取りを掛ける手があった』だよ」
乙「ツインだと裏読みされそうだけど、それは仕方ないね」

甲「共通条件の一つは“棋譜に‘同飛’が付く着手が不連続で３回”だけど、これがメインの条件なんだ」
乙「飛車以外の駒での‘同’は無いんだし、不連続で３回ってのは判りにくいね。単刀直入に

書いた方がいいよ」

甲「じゃ、『棋譜上「同」の着手は「同飛」の付く着手３回だけで、４手目以降４手毎（４、８、１２手目）に指された』にするね」
乙「もう一つの共通条件の『飛車を取る機会はなく、飛車取りを掛ける手もなかった』はこの表現でいいと思うけど､この『蝶のように舞い、蜂のように刺す』ってタイトルは何だい？」

甲「後手飛車へ先手の攻撃が届かないイメージが合っていると思うんだけど．．．」
乙「僕に言わせりゃ、敵の射程外でコソコソしている臆病な飛車だね」

甲「甲乙つけ難いね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

（条件）

・１２手で詰んだ
・棋譜上「同」の着手は「同飛」の付く着手３回だけで、４手目以降４手毎（４、８、１２手目）に指された
・飛車を取る機会はなく、飛車取りを掛ける手もなかった
・持駒を打つ手はなかった

８２-３　中級　Pontamon さん作
臆病な飛車（Ｂ）　　１２手

会話文：臆病な飛車（Ａ）と同じ

（条件）

・１２手で詰んだ
・棋譜上「同」の着手は「同飛」の付く着手３回だけで、４手目以降４手毎（４、８、１２手目）に指された
・飛車を取る機会はなく、飛車取りを掛ける手もなかった
・金取りに駒を打つ手があった
・　成る手はなかった

（追記）
８２-３について､渡辺さんから余詰の指摘をいただきました。粗検深くお詫び申し上げます。
４番目の条件「金取りを掛ける手があった」を次のように変更して修正とします。
　　「金取りに駒を打つ手があった」
なお、解答につきましては元の条件を満たしていれば正解とさせていただきます。　(10 月 11 日　ＮＡＯ)

推理将棋第８３回出題

担当：NAO

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第８３回出題です。はじめての方は　どんな将棋だったの？ - 推理将棋入門　をごらんください。

解答、感想はメールで２０１４年１１月２０日までにTETSUまで　（omochabako@nifty.com）メールの題名は「推理将棋第８３回解答」でお願いします。解答者全員の中から抽選で１名に賞品リストからどれでも一つご希望のものをプレゼント！　１題でも解けたらぜひご解答ください。

今回は端と隅の問題が出そろいました。玉と遠いところでどんな奇手妙手が現れるのでしょうか？

初級は担当から９手詰を出題します。ベテランの方はさくっと解けるでしょうが、初級者には難しめです。
中級はミニベロさんから久々の新作ミステリーをお届けします。冬眠から目覚めた三捨利警部の推理は如何に。
上級ははなさかしろうさんから骨のある作品。端の手は異なる六つの段に現れます。

前回より手強いですが、秋の夜長にお楽しみください。

◇年賀推理将棋の作品募集◇

恒例の年賀推理将棋特集を年末に出題する予定です。年賀詰は簡単な問題の方が解答者に好まれますが、難易度問わず作品を募集します。作品ができた方は是非ご投稿ください。投稿〆切１２月３日。

■本出題

８３-１　初級　ＮＡＯ作
縄の端に鐘を掛けて　９手
有効な金の打ち場所を推理しよう。

８３-２　中級　ミニベロさん作
三捨利警部の推理・凶器は隅に　１１手
隅に空間を開ける１手を推理しよう。

８３-３　上級　はなさかしろうさん作
夜の長い季節は端で　１２手
詰みに繋がる伏線を推理しよう。

■締め切り前ヒント　（１１月１３日コメント欄に掲載予定　ＮＡＯ）

８３-１　初級　ＮＡＯ作
縄の端に鐘を掛けて　９手

「さっきの将棋どうだった？端の手を指す所だけ見たんだけど」
「結局９手で詰んだよ。７筋に金を打った手が勝敗を分ける一手だったね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

（条件）

・９手で詰んだ
・端の手があった
・７筋に金を打った

８３-２　中級　ミニベロさん作
三捨利警部の推理・凶器は隅に　１１手

警官「警部起きてください、１１手詰の事件です」
警部「冬眠中なんだがな。どれ」
警官「８手目は飛車で端の手だと判明しています」
警部「それだけでは推理のしようがないよ」
警官「とどめの凶器は、隅の空間に着手されています」
警部「隅の？　それじゃ犯人は隅の老人さんだな」
警官「警部、真面目にやってください」
警部「すまんすまん。だが８手目の謎は解けたよ」

さて、どんな手口だったのでしょうか。推理し

てみてね。
（条件）

・１１手で詰んだ
・１１手目は隅の空間への着手（つまり、駒を取る手は×）
・８手目は飛車で端の手

８３-３　上級　はなさかしろうさん作
夜の長い季節は端で　１２手

「12 手で詰んだって？暦好きの君らしいね。それで、どんな将棋だったの？」
「最初の３手と最後の３手が端の筋の手で、それから…」
「ちょっと待った。つまり、1、2、3、10、11、12 手目が端の筋の手だったんだね？」
「そう。それで、その６手は互いに異なる段の手だったよ」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

（条件）

・１２手で詰んだ
・最初の３手と最後の３手は互いに異なる段の端の筋の手

推理将棋第８４回出題

担当：NAO

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第８４回出題です。はじめての方は　どんな将棋だったの？ - 推理将棋入門　をごらんください。

解答、感想はメールで２０１４年１２月２０日までにTETSUまで　（omochabako@nifty.com）メールの題名は「推理将棋第８３回解答」でお願いします。解答者全員の中から抽選で１名に賞品リストからどれでも一つご希望のものをプレゼント！　１題でも解けたらぜひご解答ください。

短手数易問の在庫が残り少なくなってきました。というわけで、今回は前月と同じ作者からの出題です。

初級は在庫がありませんので担当から。やさしめでリッチなプレゼントをお贈りします。
中級はミニベロさんから新作第二弾をお届けします。条件の多さに惑わされないように。
上級ははなさかしろうさんから。今年のトリは本格的な推理問題を出題します。

◇年賀推理将棋の作品募集◇

恒例の年賀推理将棋特集を年末に出題する予定です。難易度問わず作品を募集します。投稿〆切１２月３日。

■本出題

８４-１　初級　ＮＡＯ作
リッチな輝き　　９手
金駒以外の手は３手だけ。どの駒をどこで取ってどこに打つか推理しよう。

８４-２　中級　ミニベロさん作
条件の多い９手詰　　９手
詰みに必要な手だけでなく詰みに不要な手も見極めて詰形を推理しよう。

８４-３　上級　はなさかしろうさん作
伏線とその回収　　１２手
終盤の１筋着手につながる伏線手を推理しよう。

■締め切り前ヒント　（１２月１３日コメント欄に掲載予定　ＮＡＯ）

８４-１　初級　ＮＡＯ作
リッチな輝き　　９手

「さっきの将棋どうだった？銀の手の後に金の手を２回見たけどその後盤面がキンキラキンに輝いて眩しくてよく見えなかったよ」
「結局９手で詰んだ。君の見た金の手２回の後にも銀の手を３回も見たよ。駒がギンギラギンに輝いていたね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

（条件）

・９手で詰んだ
・銀、金、金、銀、銀、銀の順番に金駒の着手があった

８４-２　中級　ミニベロさん作
条件の多い９手詰　　９手

「新しい推理将棋作ったんだけど、見てくれない？」
「どれどれ、条件はどんなの？」
「５筋の手が４連続であって、４筋の手が連続であったの」
「なるほど、それだけね」
「いや、まだあるの。２筋の手があって、『左』の手もあったんだ」
「何それ？　条件多すぎ！　よほどの大作なんだろうね」
「ところが９手詰作品なんだ」
「だめだめそんなの。誰も解いてくれないよ、センスないね」
「そう言わないで、やってみてよ」

というわけで、解いてやってくださいな。

（条件）

・９手で詰んだ
・５筋の手が４連続であった
・４筋の手が連続であった
・２筋の手があった

・「左」の手があった
※連続とは、先手・後手の断りがない限り、全手順を通じてです。

８４-３　上級　はなさかしろうさん作
**　伏線とその回収　　１２手**

「今遊びに来てた連中、文芸部だっけ？　腕前はどうだった？」
「どうだかなぁ。先手なんていきなり１筋に指したと思ったら、次は 68 玉だぞ」
「そのあと結局、後手が最後に３手連続で１筋に指して、１２手で詰んだよ」
「ふうん。全局通しで見ると、１，８,１０，１２手目が１筋で、3 手目が 68 玉というわけか」
「なるほど。伏線をはって、回収したってこと？棋譜を合作してたのかもね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

（条件）

・１２手で詰んだ
・１，８，１０，１２手目は１筋の手
・３手目は６８玉

Fairy of the Forest #41出題(再掲)

■　2014 年 08 月 20 日：課題発表：(協力詰)
　　金または「と」が活躍する作品
■　2014 年 10 月 15 日：投稿締切
■　2014 年 10 月 20 日：出題
■　2014 年 11 月 15 日：解答締切
□　2014 年 11 月 20 日：解答延期
□　2014 年 12 月 15 日：再解答締切
□　2014 年 12 月 20 日：結果発表

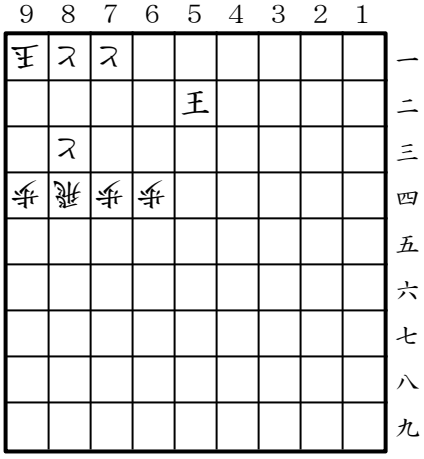
■　解答延期

　締切までに届いた解答は３通。普段でも少ない解答者が、手数が長目のせいもあってか、さらに減ってしまいました。
　特に 03 の解答者はわずか１名(作者を除く)。これではいかにも淋しい。せっかくの傑作なのに……。解答期限ををひと月延ばす所以です。04 も手数の割に易しいと思います。再挑戦をぜひ期待します。
　１題でも解けた方は、ご解答をお送りいただければ幸いです。

（解答先）
→酒井博久（sakai8kyuu@hotmail.com）

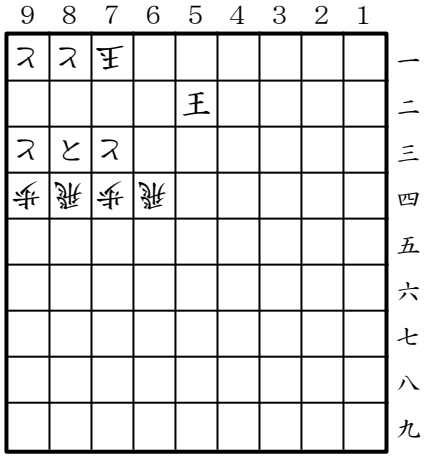
―――――――――――――――――――――――――

■　41-01　たくぼん　協力詰 27 手



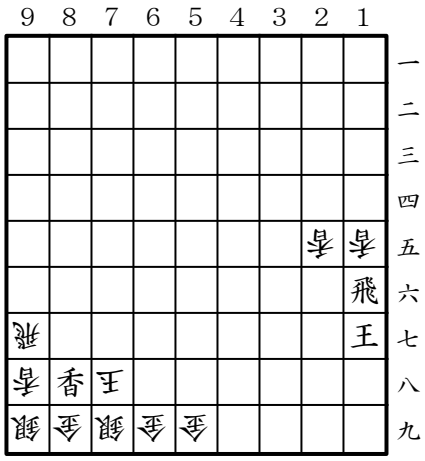
持駒 歩3

■　41-02　たくぼん　協力詰 31 手



持駒 歩2

■　41-03　神無七郎　協力詰 107 手



持駒 金桂歩18

■　41-04　小林看空　協力詰 261 手「輪廻」

持駒 なし

*42 回課題発表は P48 をご覧下さい

第66回WFP作品展結果　担当：神無七郎

今回は第 66 回 WFP 作品展の結果を報告します。出題は全 10 題。解答者は５名でした。以下に今月の解答成績をまとめます。**66-10** のセットは 4 点で計上しています。

〔第 66 回 WFP 作品展成績〕（敬称略）

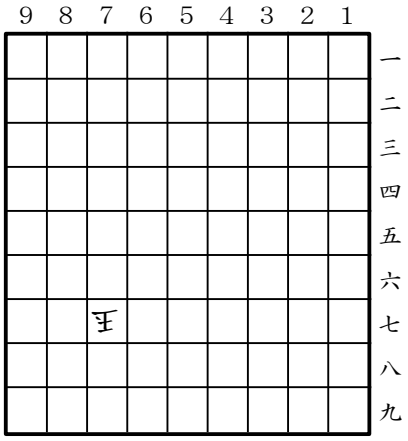
○：正解　－：無解

解答者名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
たくぼん	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13
変寝夢	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	8
一乗谷酔象	○	－	○	－	－	－	○	○	－	○	8
ＤＤ++	○	○	○	－	－	－	－	－	○	○	8
ミニベロ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	4

今回は推理将棋で大活躍のミニベロさんが **66-10** の解答者として初登場。いろいろなルールの作品が登場する本作品展では、無理に全部解こうとする必要はありません。自分の好みの作品だけの解答も歓迎します。

■ 66-1　変寝夢氏作（正解４名）

協力詰 7手



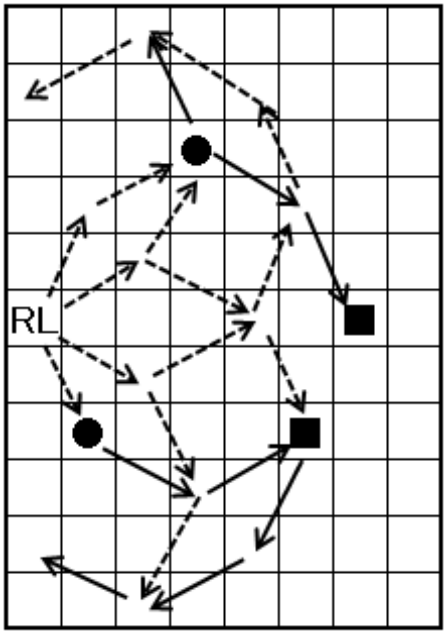
持駒　香RL

※RL：Rose Lion

【ルール】

- **協力詰**
  先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

- **RoseLion**（RL）
  フェアリーチェスの Rose（薔）に Lion（鬣）の性質を付加したもの。
  円形に進むナイトライダーで、途中の駒を一つ跳び越えその先の（Rose としての）任意のマスに着地する。そこに敵駒があれば取れる。ただし、二枚以上跳び越したり、盤をはみ出したりすることはできない。

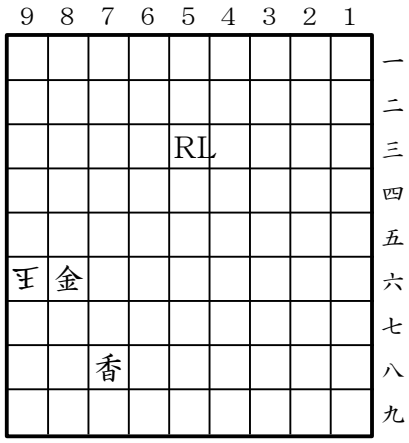


点線と実線の矢印が RL の軌道。●が敵または味方の駒で、そこを通過した実線部の矢印の終点に着地できる。■が敵駒なら取れる。RoseLion の利き筋は１周分で終了し、自分自身をジャンプ台として先に移動することはできない。１枚跳び越した後、元居た位置にまで戻ることはできる。

【解答】

79 香　78 金　同香　86 玉　53RL 96 玉
86 金　まで　7 手

（詰上り）



持駒　なし

【作者のコメント】

５３Rl が狙いの限定打

【解説】

ローズライオン（RL）は円形に跳ぶ駒です。こういう派手な利きの駒を見ると、ついつい派手な手順を読みたくなりますね。例えば、盤上に２枚ジャンプ台を配置して、１枚の RL で両王手を行う筋は魅力的です。でも本局はそうではありません。確かに RL の利きは大きいのですが、利きがまばらに分布するので、玉を捕まえにくいのです。

そこで「トドメは金」の格言通り、合駒で金を入手しますが、それでも玉周辺の利きが足りません。

これを補うのが５手目 53RL の限定打。金合を稼いだ 78 香をジャンプ台にして、金を支える「53→34→26→38→59→78→86」の利きと、玉の逃げ道を塞ぐ「53→45→57→78→97」の利きの両方を玉の近傍に利かせるのです。

ローズ系の駒は場所によって利きが密だったり疎だったりすることや、同じ場所に逆回転のルートで到達できるという特徴があります。今回は利きが密になる箇所を利用した作品ですが、他にも様々な使い方がありそうですね。

【短評】

たくぼんさん

5 手目どこから打つかがポイント。
EXCEL の升目に色を付けて解きました。

ＤＤ++さん

RL はとんでもないところから合駒を入手できる（この図で 25 に踏み台があれば 58RL52 金合同 RL（逆回りが王手）とか）ので全部読むのは厄介だなあ、と思っていたらまさかの全パターンハズレ。深読みしすぎました。

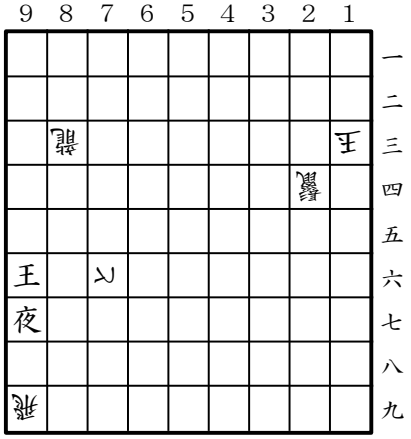
一乗谷酔象さん

右大回りの効きが 86 で右小回りの効きが 97 ですか。終図を見ても詰んでいるか分かりませんね。

☆皆さん利き筋の把握に苦労されていますね。私もたぶん暗算ではローズを使った作品は解けないと思います。

■ 66-2　変寝夢氏作（正解３名）

協力自玉詰 12手

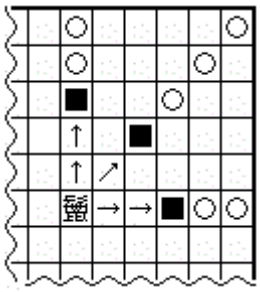


攻方持駒 なし
受方持駒 なし
※夜：ナイトライダー、鬣：Lion
76とは中立駒

【ルール】

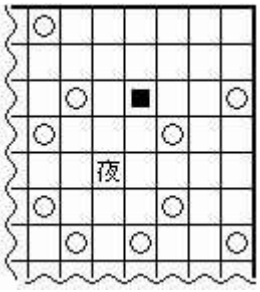
• **協力自玉詰**
先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

• **Lion**（鬣）
フェアリーチェスの Lion（鬣）。
クィーンの利きの方向にある駒を１つ跳び越えその先の任意のマスに着地する。着地点に敵駒があれば取れる。



（○が鬣の利き。■は敵または味方の駒。○の地点が埋まっていると、その先には跳べない。）

• **ナイトライダー**（夜）
フェアリーチェスのナイトライダー。
ナイトの利きの方向に連続飛びができる。



（○がナイトライダーの利き。■に駒があるとそこから先には利かない。）

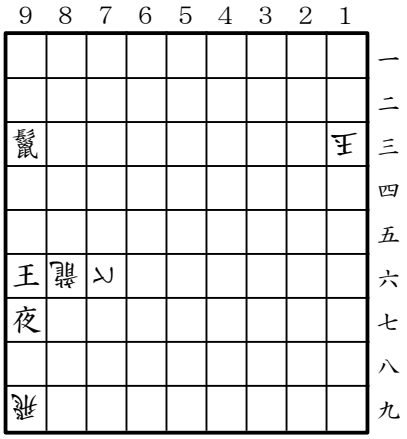
• **中立駒**（「嵒」あるいは「n 駒」）
どちらの手番でも動かせる駒。

横向きの字か横に n を付加して表記。
→詳細は WFP61 号の「中立駒の紹介」の記事を参照してください。

【解答】

65n と 55n と 44n と 34n と 24n と 34n と 44n と 55n と 65n と 76n と 93 鬣 86 龍 まで 12 手

（詰上り）



攻方持駒 なし
受方持駒 なし

【作者のコメント】

夜をバックにした、と鋸です。
最終手９４龍は９５Li があります。
とを金にするとかなり余詰が出ます。

【解説】

65-9 で中立駒を使って「横向きに進む桂鋸」を見せてくれた作者。今度は中立駒とナイトライダーを使って「桂馬跳びに進む金鋸」を見せてくれました。

仕組みは攻方の手番でナイトライダーの利きを開け、受方の手番でナイトライダーの利きを塞ぐという単純明快なもの。中立駒の「と金」が両方の役目を一人でやってくれるので、玉が不動のまま、あっという間に一往復の金鋸が行われます。往路では「斜め」「横」、復路では「横」「斜め」の順に進むことにより、「と金」がナイトライダーの軌道を外れることはありません。

金鋸一往復の目的は、往路は質駒（24 にいる Lion）の入手することで、復路は龍に利かすことです。最終手の 86 龍はもちろん取れません。中立駒は攻守双方にとって敵駒なのです。作者のコメントにもあるように最終手に 94 龍で詰んでいないのも面白いですね。

最近は桂以外の駒が桂馬型に進む趣向作がちらほら発表されるようになりましたが、桂馬型の利きに進む金鋸は普通詰将棋ではまだ見たことがありません。桂馬に限らず「中途半端な角度に進む趣向」はまだまだ開発途上で、これからの発展が期待される分野です。

【短評】

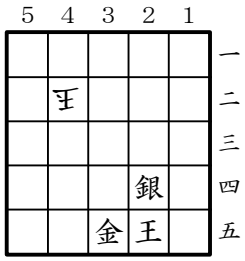
たくぼんさん
趣向は一目だけど利きを見極めるのが大変でした。

ＤＤ++さん
11 手目まで１分、最終手で１週間。

☆86 龍の「開き応手」が見えにくかったわけですね。ホッパー系の駒の王手にはこういう受けがあるので憶えておきましょう。本局は Lion を使わなくても収束は簡単に作れると思うので、これで解答者が減ったとすれば勿体ないことです。

■ 66-3　変寝夢氏作（正解４名）

京都将棋協力自玉詰 8手



持駒 なし
※京都将棋（金⇔桂、銀⇔角、香⇔と、飛⇔歩）
受方持駒は残りすべて（歩 2 金銀香 2）

【ルール】

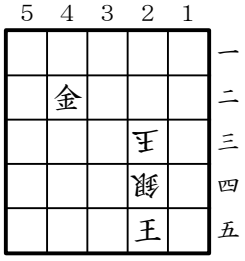
•京都将棋
盤面は縦横 5 マス。自陣・敵陣はない。
駒は次の 5 種類を先後各 1 枚ずつ持っている。
動きは将棋のものと同じ。
・玉：表裏とも玉
・香と（きょうと）：表が香、裏がと
・銀角（ぎんかく）：表が銀、裏が角
・金桂（きんけい）：表が金、裏が桂
・飛歩（ひふ）：表が飛、裏が歩
駒は成らず、その代わりに 1 手動くごとにその駒を裏返す。すなわち駒は 1 手ごとに性能が変わる。将棋同様取った駒は打てるが、表裏どちらで打ってもよい。

打歩詰、二歩は禁止されていない。行き所のない駒も禁止されていない。

【解答】（※変化後の駒種を＝で表記）

15 銀=角　33 角　34 金=桂　32 玉
42 桂=金　23 玉　24 角=銀　同角=銀　まで 8 手

（詰上り）



持駒 なし

【作者のコメント】

軽い合駒物です。
合駒を同Ｘと取る手がない（表裏打てるので非限定になる）ことに気がついていただければ。

【解説】

ミニ将棋と言えば最近は「どうぶつしょうぎ」が定番。これは完全解析がなされており、「後手必勝」の結論が出ています。また、「詰みのある局面」も研究されていて、最長でも 23 手で詰むそうです。つまり「詰どうぶつしょうぎ」をやるとしても、残っているのは、「面白い作品」を探すことくらいしかないわけです。
同じミニ将棋でも「５五将棋」は未解明で、今年も「UEC 杯５五将棋大会」のような催しが行われています。５×５というと将棋盤に比べてずいぶん狭く感じますが、マスの数は「どうぶつしょうぎ」の約２倍なので、全検は無理なのでしょう。第２回電王トーナメントに出場した「GA 将!!!!!!!!」が「５五将棋」に対応しているので皆さんも遊んでみてはいかがでしょう。（筆者は実際にやってあっさり負けました。）
そして本局で採用された「京都将棋」も小さな盤で戦うミニ将棋の一種です。升目の数は５×５で、「５五将棋」と同じなのですが、京都将棋で特徴的なのは駒の性質が一回動かすごとに変わること。駒にカメレオン駒のような性質が加わっているわけですね。ただし、京都将棋では持駒を打つときに裏表どちらでも構わないので、そこはカメレオン駒と異なります。
京都将棋の詰将棋は 1980 年代に多く発表されており当時は「京都詰」と呼ばれていました。今世紀に入ってからは正式発表の記録がないので、今回の変寝夢氏の作品は久々のリバイバルとなります。
ずいぶん前置きが長くなってしまいましたが、京都詰の復活第一号である本局は協力自玉詰の合駒問題です。初手で銀を角に変えて合駒を請求するのは当然として問題はその合駒。自玉を詰めるのに都合の良い駒は金か銀であることと、自玉の頭に移動できることを考えれば角合に絞るのは容易でしょう。
そして作者のコメントにあるように、合駒をすぐに取る手が作意だと、裏表どちらを合駒しても良いことになり、必然的に非限定が生じます（これがカメレオン駒で「持駒を打つときは取ったときの状態から」というルール設定になっている理由でしょうか）。非限定がないことを前提に解図を行えば、連続合の筋は読まずに省略することができるのです。そうすると、作意のように 35 金を活用して受方玉を呼び出す手順もすんなり判明すると思います。
まずは詰京都将棋入門にふさわしい一作だったと思います。

【短評】

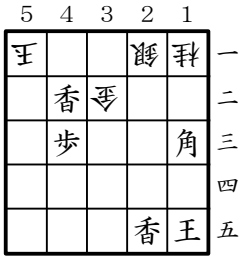
たくぼんさん
表記方はこれで良いのかな？
変化するのが２パターンなのでまだ考えやすい。

☆表記は分かればＯＫです。「＝」の代わりに「→」を使おうかとも思いましたが、本稿ではカメレオン駒で使った表記を流用しました。

ＤＤ++さん
普通なのも特殊なのも含めて、苦手な自玉詰を初めてスムーズに解けた気がします。
角銀以外は駒を引くと王手にならないので読みやすかったのでしょうかね。

■ 66-4　変寝夢氏作（正解２名）※実質１名

京都将棋協力自玉詰 16



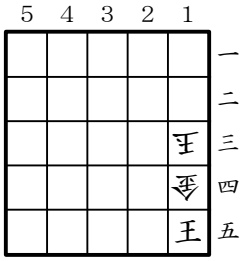
持駒 なし

※京都将棋（金⇔桂、銀⇔角、香⇔と、飛⇔歩）
受方持駒は残りすべて（歩）

【解答】

41 香=と　同玉　42 歩=飛　同玉　31 角=銀　同玉
21 香=と　同玉　12 銀　22 玉　11 銀=角　13 玉
22 角=銀　同金=桂　14 金　同桂=金　まで 16 手

（詰上り）



持駒 なし

【作者のコメント】

後１枚消せませんでしたが、煙です。

【解説】

京都将棋の準煙。後一枚消せば「全駒煙」なので、何とか押し込んで欲しかったですが、作者もまだこのルールは手探り状態なのでしょう。

手順を見ていきましょう。序の数手は駒を捨てて玉をおびきだす手順。３手目 31 角「成」とはできず、銀になってしまうので、42 歩を入れるのが京都将棋らしいところ。また 21 銀を取った後、これを３段活用する手が面白いので、ここが逆算の起点なのでしょう。最後には入手した桂を金として使い、頭金で自玉を詰めます。

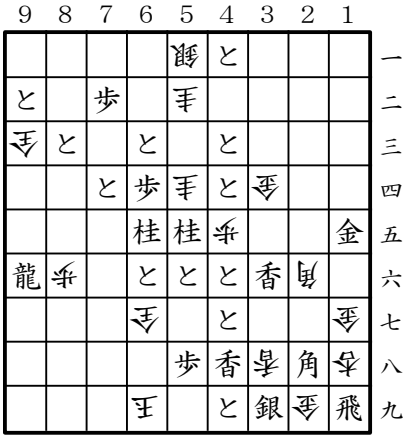
このように作意だけ見ると何の変哲もない手順ですが、解答者にとって意外な難物だったようです。特に 31 角＝銀の後、これを盤上に残す紛れが強力で、これは解答者が嵌っていました。これは 11 桂配置が引き起こした紛れかもしれません。もし 11 金の配置なら解答者は 11 金を取る手を真っ先に読んだはずです。もしかすると 11 金では何か不都合があって桂配置になったのかもしれませんが、作者が意図しない自然発生的な要因が作品の難度を左右することは、しばしばあります。

今回の作品展では **66-9** でもミニ煙が登場するので、この機会にいくつか煙詰を紹介します。

後一枚で煙詰を逃した準煙詰といえば、筆者は室井哲哉氏の「敗走」を思い出します。

〔参考〕室井哲哉「敗走」
（詰将棋パラダイス 1969 年 8 月）

詰将棋 91手



持駒 なし

59 と　同玉　99 龍　58 玉　57 と引　同全
同と　同玉　97 龍　66 玉　56 と　同玉
47 龍　65 玉　67 龍　74 玉　76 龍　83 玉
86 龍　92 玉　81 銀　91 玉　92 歩　同全
同銀生　同玉　83 銀　93 玉　95 龍　83 玉
73 と　同玉　63 桂成　74 玉　73 圭　同玉
63 歩成　同玉　54 と　同玉　66 桂　43 玉
45 龍　同金　同香　53 玉　54 歩　62 玉
74 桂　63 玉　64 金　72 玉　73 金　61 玉
51 と　同玉　62 銀　同圭　同金　同角
63 桂　52 玉　62 桂成　同玉　84 角　63 玉
73 角左成　54 玉　64 馬　45 玉　55 馬　36 玉
46 馬　26 玉　17 角　15 玉　25 金　16 玉
26 金　17 玉　18 飛　26 玉　27 香　同玉
38 銀　18 玉　19 香　同金　同馬　同玉
29 金　まで 91 手

盤を斜めに使った手順が独特で、全駒煙にならなかったのが残念な作品です。現代の感覚だと、逆算を少し工夫すれば一枚くらい何とでもなりそうに思いますが、当時はまだ「煙詰は作るのが難しい」という先入観が残っていたので

しょう。具体的な創作のノウハウ、あるいは手本となる作例が不足していたことも事実です。

協力自玉詰の煙詰も早くから創作が試みられてきました。しかし、余詰・早詰が多く、なかなか完全作は現れませんでした。おそらく、最も早く完全作として発表されたのは、佐々木康司氏の作品ではないかと思います。（ただし、一ヶ所非限定あり。）

〔参考〕佐々木康司
（詰将棋パラダイス 1986 年 5 月）

ばか自殺詰 78手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					と	と		歩	一
	金			銀	銀	銀	香		二
	金					香	歩	と	三
	金						と	歩	四
	金					と			五
				と	と	と	桂		六
飛	馬	飛		と	と	と	桂		七
角	香	と		と		と	桂		八
玉		香	玉	銀	と		桂		九

持駒 なし

89 角 同玉 99 飛 同玉 98 馬 同玉
97 飛 同玉 87 と 98 玉 97 と 88 玉
87 と 同玉 86 金 同玉 85 金 同玉
84 金 同玉 83 金 同玉 73 香成 同玉
63 銀成 同玉 53 銀成 同玉 43 銀成 同玉
42 と 同玉 41 と 同玉 31 香成 同玉
21 香成 同玉 12 と 同歩 22 歩成 同玉
13 歩成 同歩 14 桂 同歩 23 と 同玉
15 桂 同歩 24 と 同玉 16 桂 同歩
25 と 同玉 17 桂 同歩成 26 と 同玉
27 と 同と 37 と 同と 36 と 同玉
47 と寄 同と 46 と 同玉 57 と 同玉
48 と 67 玉 57 と 同と 68 銀 同と
まで 78 手（※41 手目成生非限定）

この作品では攻方玉を詰めるための駒（11 歩）が最初から盤上に置いてあり、これが完全作となった大きな要因でしょう。余詰の元になりやすい大駒を序盤で捨てる構成にしたのも、巧いですね。ただ、「完全」と「成功」は同義ではありません。同時期には「無防備煙」を目指した意欲作があっただけに、余詰・早詰がないだけの本作は、正直物足りなく感じたものです。

次は京都将棋の煙詰です。これも割と早い時期に登場しています。

〔参考〕中島和男「煙草」
（将棋パズル 第 47 号 1983 年 2 月）

京都詰 19手

5	4	3	2	1	
				玉	一
飛			香	飛	二
	桂	王			三
角		銀	又	金	四
					五

持駒 なし

23 金=桂 同と=香 21 香=と 同玉
31 桂=金 同玉 32 角=銀 同飛=歩
同飛=歩 41 玉 31 歩=飛 同玉
41 飛 同玉 23 銀=角 52 玉
41 角=銀 同玉 42 と まで 19 手

「と金」を打つ最終手が京都将棋らしくて新鮮ですね。初手が 15 手目に備えた伏線になっているのも良い構成です。厳密に言えば 18 手目「同玉」以外の手を指せば煙にならないのですが、当時はあまり気にしなかったのでしょう。

このように京都将棋においても協力自玉詰においても煙詰は早くから作られていますが、両方を組み合わせた「京都将棋協力自玉詰」では、本局が初の煙詰となります。それだけに、本局が全駒煙でなかったことは残念に思います。

【短評】

たくぼんさん
最初に読んだ筋は、6 手目より 33 玉、25 香（と）、同桂（金）、42 銀（角）、22 玉、33 角（銀）、11 玉、44 銀（角）、22 歩、同角（銀）、同金寄（桂）、14 飛、同桂（金）迄 18 手。これが思いのほかそれらしい順なので捨てきれず苦労しました。作意は 11 桂を取るのが盲点でした。

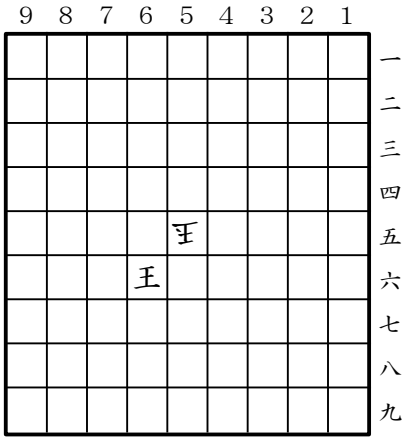
ＤＤ++さん（※無解）
41 香→と、同玉、42 歩→飛、同玉、
31 角→銀、33 玉、22 銀→角、42 玉、
33 角→銀、31 玉、22 香→と、同金→桂、
42 銀→角、32 玉、33 角→銀、23 玉、

32 銀→角、13 玉、14 角→銀、同桂→金で 20 手。
４手過剰というのがいかにも角銀反転が１セット多い感じですが、どうにか縮まるのか、それともこの順は全くの見当違いなのか、はてさて。

☆たくぼんさんの短評の中の「25 香（と）」は「23 香（と）」の誤記でしょうか。
こうしてお二人の読んだ紛れを見ると、煙詰は予想していなかったようですね。もし全駒が配置されていたら、簡単に解けたかもしれません。

■ 66-5　変寝夢氏作（正解２名）※実質１名

PWCKマドラシ協力自玉詰 4手



持駒　香

【ルール】

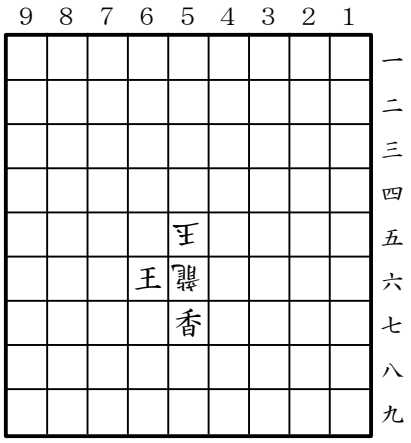
• **PWC**
取られた駒は取った駒が元あった場所に復元する。（駒位置の交換となる）。

• **マドラシ**
同種の敵駒の利きに入ると、利きがなくなる。Ｋマドラシでは玉もこの作用の対象となる。

【解答】

57 香　56 飛　同香/57 飛　同飛成/57 香
まで　4 手

（詰上り）



持駒　なし

【作者のコメント】

Ｋマドラシ使っていますが、判りにくいと判断された場合はＫマドラシを取って、５５，６６玉を石（不動玉）にする手もあります。
初手の香打の中味は濃いと思う。

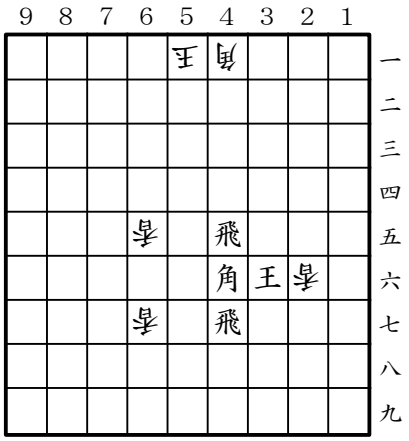
【解説】

玉同士がくっついている初形にギョッとさせられますが、「Ｋマドラシ」により両者の利きは消えています。実質的には「不動玉」のルール設定だと思ってください。
そして作品の狙いは限定打と「龍合」。
京都将棋と異なり、普通の将棋では駒を裏向きに打つことはできません。つまり「飛合」はできても「龍合」はできないのです。しかし、本局はＰＷＣの位置交換を使って飛合を龍に変換し、結果的に「龍合」した局面を作ります。この「龍合」を取って逃れないよう、初手の香は限定打となっています。
ただ、この手順はＰＷＣに慣れた人なら常識ですし、「マドラシ」や「不動玉」を使わなくても双裸玉で実現可能（例：PWC 協力自玉詰　17 王　+香，24 玉　#4）なので、このままでは手筋紹介以上の作品にはならないと思います。

この手筋の応用で最も強く筆者の印象に残っているのは「第 31 回神無一族の氾濫」で発表されたこの作品です。

〔参考〕神無太郎
（詰将棋パラダイス 2009 年 12 月）

PWCばか自殺ステイルメイト 18手



攻方持駒 香
受方持駒 ∞

59 香 58 角 同香/59 角 57 角
同香/58 角 56 飛 同香/57 飛 同飛成/57 香
同香/57 龍 55 飛 同香/56 飛 54 金
同香/55 金 53 角 同香生/54 角 52 角打
同香生/53 角 同角 まで 18 手

受方持駒無制限で何を何枚合駒しても良い形ですが、合駒はすべて限定され、５筋に見事な駒柱が出現します。この中で８手目と９手目が「飛合」を「龍合」に変える手筋が良いアクセントになっており、正解者からは好評でした。

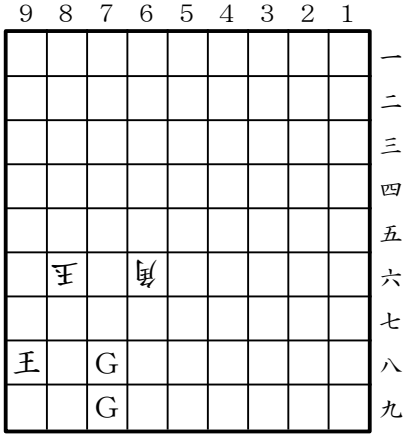
【短評】

たくぼんさん
Ｋマドラシ付加は初形の駒数を減らす目的？

☆本局の解答者が１名のみだったのは意外。
複合ルールというだけで敬遠されてしまったのでしょうか？

■ 66-6 変寝夢氏作（正解２名）※実質１名

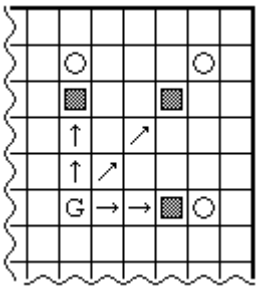
協力自玉詰 6手



持駒 香 n桂
※G：グラスホッパー、n桂は中立駒

【ルール】

• グラスホッパー（G）
フェアリーチェスの Grasshopper。
クィーンの線上で、ある駒を１つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。

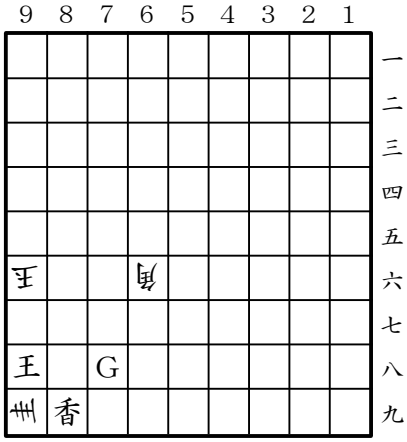


（○が G の利き）

【解答】

89 香 96 玉 87n 桂 79n 桂生
87n 桂 99n 桂成 まで 6 手

（詰上り）



持駒 なし

【作者のコメント】

最終手中立駒の桂版。
Ｇと相性がいいのはわかりました。

【解説】

中立駒で詰めるにはどうするか？
中立駒はどちらの手番でも動かせるので、中立駒の王手で詰めるには工夫が必要です。本局での工夫は「行き場をなくす」こと。詰上りを見てください。中立駒は自分の手番側の駒を取れないので、99n 圭は 89 香を取ることができません。88n 圭と動かしても王手は解消されません。他に n 圭を動かす場所もなく、これで詰んでいます。89 香が中立駒を閉じ込める意味以外に、角筋を通す意味も持っており（88 香だと角筋を遮ってしまう）、意味付けの重複を気にする人もいるかもしれませんが、香を打つ序奏はやはり入れたいところです。
この詰上りに至る前に 79Ｇを消去する手順を入れたのは好判断。ホッパー系の駒を軸とした「開き王手」と「開き応手」の繰り返しは **65-9** でも出てきましたが、この伏線により手順にリズム感が生まれたのは良かったと思います。

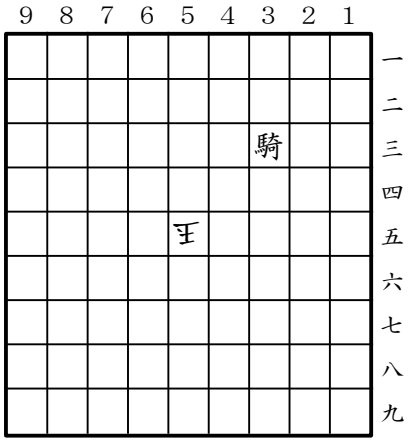
【短評】

たくぼんさん
桂のダンスが楽しい作品。

☆手順が面白いだけに解答者が少ないのは残念。
やはりフェアリー駒が原因でしょうか。

■ 66-7　変寝夢氏作（正解３名）

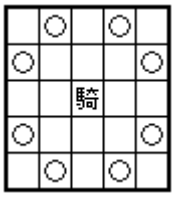
背面協力詰 9手



持駒 なし
※騎：ナイト

【ルール】

• ナイト（騎）
ナイトはチェスの駒。八方桂。



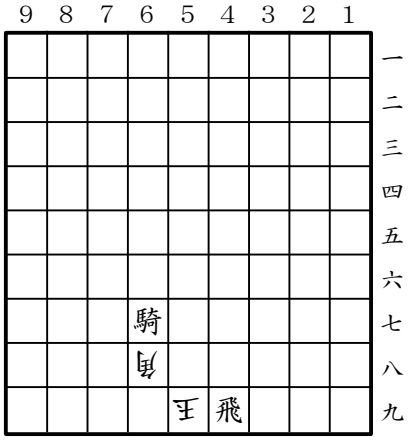
（○が騎の利き）

• 背面
敵駒と背中合わせになったとき、互いに利きが入れ替わる

【解答】

54 騎 47 玉 66 騎 67 飛 46 騎 59 玉
67 騎 68 角 49 飛 まで 9 手

（詰上り）



持駒 なし

【作者のコメント】

最終３手がミソ。
飛対のところは余りにも古いが。

【解説】

騎（ナイト）を玉の背面から王手を掛けると、次に玉が（一段目以外の）どこに逃げても、騎本来の利きによる王手と、背面ルールを使った王手の両方が可能になります。通常の将棋駒で、このような性質を持った駒は龍馬飛の３種類だけです。しかも騎には「玉で直接取れない」という性質もあり、この点では上に挙げた３種のどの駒とも異なっています。つまり、背面で騎を使うと、今まで見たことがないような手順が可能になることが期待できるのです。
ただし、本局それ自体は背面では割と普通にある構成です。つまり背駒で強力な飛を発生させ、それを入手して詰ませるという、対面や背面で小駒が持駒の時によく見る筋を騎に適用しています。騎を使用しているので玉もピョンピ

ョン跳び、都玉があっという間に盤端に到達するのが特徴的です。

ちょっと面白いのが最終手角で飛を取れないこと。この瞬間、角は騎の性能なので、49 飛を取れそうなのですが、実際に取ってしまうと 67 騎の性能が復活し、自玉への王手となってしまいます。つまり 68 角は 67 騎によってピン止めされているわけです。走り駒でない駒でピン止めできるのは性能変化系ルールの特徴です。

なお、本局では初手に騎で背面から王手したとき左右対称形になるので、ここから左右対称の解があるわけですが、本作品展では途中左右対称形からの左右対称解は原則同一視し、非限定として扱いません。(ただし、キルケなどルール自体が左右非対称のものは除きます。)

【短評】

たくぼんさん

思った以上に紛れがあるのですね。

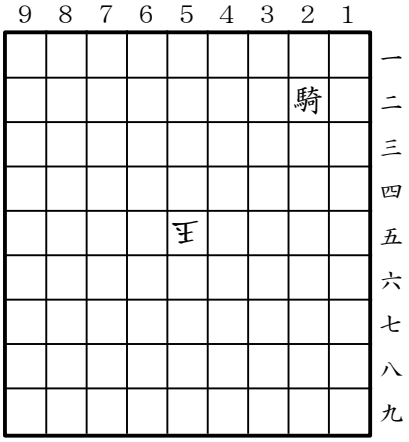
騎を角に変換とは予想外の展開でした。

一乗谷酔象さん

背面らしい詰み。

■ 66-8　変寝夢氏作（正解３名）

背面協力詰 9手



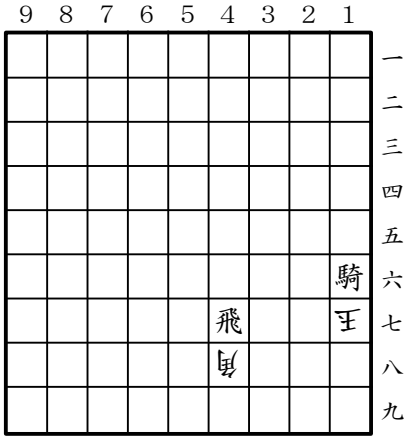
持駒　なし

※騎：ナイト

【解答】

34 騎　35 飛　54 騎　36 玉　35 騎　17 玉
47 飛　48 角　16 騎　まで　9 手

（詰上り）



持駒　なし

【作者のコメント】

最終形が狙い。

角とナイト系は相性がいいようです。

【解説】

前局と似た構図で騎が一つ遠いだけ。ツインで出すこともできたのでしょうが、内容的には前座と真打ほどの違いがあるので、独立で出題しました。

初手に一つしか王手がなく、２手目も玉が逃げるしかなかった前局と異なり、本局は初手に王手が二つ、それに対する受けも玉が逃げる手と背駒を打つ手があり、導入部から紛れは多くなっています。方針を誤ると解図作業が泥沼に陥る恐れがあります。

結論から先に言うと、本局も飛を入手して玉を詰め易い盤端に持ってくるという手順の大枠は前局と同じです。大きく違うのはトドメの王手を行うのが騎であること。性能の弱い駒でトドメを刺すのが対面や背面の常道ですが、敢えて利きの大きい騎でトドメを刺すという意外性が本局を難解にしています。

騎という詰めにくい駒を詰めることを可能にする秘訣が、角の上手な利用です。斜めに隣り合う騎の利きを線で結び、その交点に角を置けば１枚の角で騎の４つの利きを抑えることができます。これはナイトライダーなどにも応用可能で、一枚のナイトライダーを２つの角で睨んで利き筋を抑えることができます。

ただ、本局を更に難しくしているのは、角を直接使うのではなく、角の背駒で飛を角にして使うことです。これにより飛の使いやすさと、角と騎の相性の良さを両立させるわけです。

参考までに紛れの一例を挙げましょう。もし 11 手でよければこんな手順があります。

34 騎 35 角 43 騎 54 玉 35 騎 44 玉
55 角 56 桂 同騎 54 玉 53 桂 まで 11 手

まさかの詰上り「１」で「おお、これは凄い！」と思った人、騙されてはいけませんよ。これは背面でよくある筋に当てはめただけで、別に桂を背駒で出さなくても、普通の桂合で代替できます。でも、これから創作する人のためのヒントにはなるかもしれません。

ついでに裸玉にできない理由も説明しておきましょう。一つの理由は前局の手順が生じるからですが、裸玉にすると次のような手も生じてしまいます。

36 騎 37 香(飛) 34 騎 35 飛 54 騎 36 玉
35 騎 17 玉 16 飛 まで 9 手

この手順に２手目香と飛の非限定がなければ裸玉で「３解を求めよ」として出す手もあったかもしれませんが、そうそう上手くいかないのが詰将棋です。

【短評】

たくぼんさん
28 玉+46 飛が上手くいかないので、17 玉+47 角を考えるが角が上手く置けない。
飛を取って角に変えてもらうとはコロンブスの卵のような怪手順。

☆なるほど、飛でも騎の利きを４つ止められますね。角を背駒で入手して、その角を背駒で飛に変えて詰む作品を作れば本局とペアにできそうです。

一乗谷酔象さん
玉を騎にするとは詰めにくいと思ったが、角(飛)1 枚で 17 騎(玉)効き四つを押さえられた。

■ 66-9　詰ガエル氏作（正解２名）

協力自玉ステイルメイト 28

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
							銀	銀	二
				歩	歩			歩	三
					玉	歩	歩	桂	四
							桂	桂	五
			歩			銀			六
				桂			銀		七
									八
									九

持駒 なし

【ルール】

• 協力自玉ステイルメイト
先後協力して最短手数で攻方をステイルメイトにする。

• ステイルメイト
王手は掛かっていないが合法手のない状態。（玉がない場合は単に合法手がない状態）

【解答】

33 銀生 53 玉 45 桂 43 玉 44 銀生 34 玉
35 銀上 25 玉 34 銀 15 玉 26 銀 14 玉
23 銀引生 13 玉 22 銀生 24 玉 33 銀引生 34 玉
35 銀上 45 玉 46 銀 同玉 55 銀 同玉
44 銀生 66 玉 55 銀 同玉 まで 28 手

（最終形）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
				玉					五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

コンピュータによる自動創作（逆算法＋ビームサーチ）で得られた図です。それなりに歯ごたえがあって楽しんでもらえるのではないかと

期待しています。個人的には６６歩を消去する方法と、後半部分で玉を３４に誘導する方法が考えどころかと思っています。

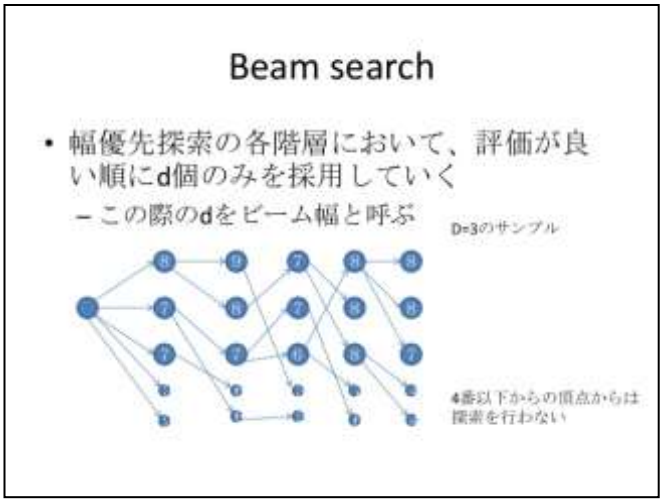
【解説】

煙詰は最後に３枚で詰め上がる。これは普通の詰将棋でのこと。対面などの性能変化系ルールでは最後は２枚で詰上ります。そして、単玉の自玉ステイルメイトでは最終手１枚の煙詰が存在します。ステイルメイトなので、最終手が「詰み」ではありませんが、最終形のスッキリ感は通常の煙詰を上回ります。

本局は紛れが少々ありますが、手順は比較的単純です。とにかく攻方の駒を消していけば良いので、銀で玉を追い、消しにくい歩や桂を間接的に消していきます。駒を取りやすいよう、銀の不成を続けるので、サラサラとした独特の感触の手順です。何をどの順番で消すのか少し迷いますが、66 歩が他の駒から遠いところにあるので、この消去を最後に回すことにすれば、消す順番をある程度絞ることができるでしょう。66 歩を消したら、用済みになった銀も消し、鮮やかな都玉の最終形が表れます。

と、ここまでは表の解説。本局の真髄は作品そのものより、それを生み出した舞台裏の仕掛けにあります。

本局の真の主題は煙詰の自動創作です。作者のコメントにある「ビームサーチ」とは、すべての候補ではなく、何らかの条件によって絞られた候補だけを調べること。ネットにとても分かりやすい図があったので拝借します。



（高橋直大「Chokudai Search について」http://ja.slideshare.net/chokudai/chokudai-search-23234124 より）

この図を見ると、広大な探索空間の中で狭い範囲のみに焦点を当てる「ビーム」のイメージが湧くと思います。ビームサーチは最善解を求める場合には向かない方法ですが、「まあまあ良さそうな解」を現実的な時間で求めるのに向いた探索法でしょう。

本局は「逆算＋ビームサーチ」によって作られたもの。つまり、最終図から出発して一定の基準で選ばれた逆算手に対してのみ完全性を確認しながら逆算を進めた成果物です。本局で使われた評価基準の詳細は分かりませんが、無防備図式であること、使用駒が銀桂歩のみであること、成る手が出てこないことが逆算手の選定基準に含まれていると思われます。全駒煙を目指すならもっと「ビーム」の精度が良くなるような評価基準を設定する必要がありますが、協力自玉ステイルメイトに限れば（煙詰が作りやすいルールなので）意外と簡単に実用的な評価基準が得られるかもしれません。

ただ、この手法で普通詰将棋の全駒煙を作る場合、評価基準はかなり高度なものが必要です。大駒の使い方、使用駒のバランス、配置駒の分布など、ルール化すべき項目は多岐にわたるでしょう。もしかすると、そうしたルールを人力で書き下すのは無理(煙詰創作が得意な人でも、自分の創作法を文章で書けと言われたら困るでしょう？）で、機械学習的な手法が必要かもしれません。でも、もしそれが実現すれば、非常に画期的なことだと思います。作者には更に進んだ研究もお願いしたいと思います。

【短評】

たくぼんさん

66 歩の消し方を考えれば正解に辿り着く。
強欲っぽい手順なのでこれはお手の物（笑）。

☆強欲協力詰は自動逆算に向いたルールだと思います。これで自動逆算をやるなら、ぜひ「紛れの多さ」を基準に逆算して欲しいですね。史上最難解強欲煙に期待します。

変寝夢さん（※無解）

６手目までは手をつけやすいが、こういう柔らかい手は見えないんですよね。
煙のような逆算のにおいがしますね。

ＤＤ++さん

「最終５手は非限定なしなら 55 玉、44 銀不成（33 から）、66 玉、55 銀、同玉しかなさそう。しかし 33 に銀を用意する方法もわから

なければ、12 銀の引っ張り出し方も１筋２筋の大量の桂歩の活用方法もわかりませんでした。」までギブアップ用短評を書いたところで実は解答の目の前にいることに気が付きました。いやー、思考の整理って大事。

☆これは良いことを聞きました。
解けない時には、どこで行き詰ったのか文章に書くのも一法というわけですね。

■ 66-10　一乗谷酔象氏作（正解４名）

推理将棋『樋内一族の四兄弟』

樋内一族の四兄弟は街のならず者だ。
飛車打ちがあって成る手がない将棋でたったの９手で相手をぶっ倒した。

一郎「俺が飛車を打ったのは一段目。
打つ手が２回と銀の手があったね」
二郎「俺が飛車を打ったのは二段目。２手目は
５筋で止めの１手は角の手だった」
三郎「俺が飛車を打ったのは三段目。
もちろん２手めは５筋だ」
四郎「俺が飛車を打ったのは四段目。
２手目は６筋さ」

さて、樋内一族四兄弟の指した４つの対局とは、どんな将棋だったのだろうか？

<u>一郎の条件</u>
1) 成る手なく、９手で詰んだ
2) 一段目に飛を打った
3) 持駒を打つ手が２回あった
4) 銀の着手があった

<u>二郎の条件</u>
1) 成る手なく、９手で詰んだ
2) 二段目に飛を打った
3) ２手目は５筋に着手した
4) とどめの１手は角の着手だった

<u>三郎の条件</u>
1) 成る手なく、９手で詰んだ
2) 三段目に飛を打った
3) ２手目は５筋に着手した

<u>四郎の条件</u>
1) 成る手なく、９手で詰んだ
2) 四段目に飛を打った
3) ２手目は６筋に着手した

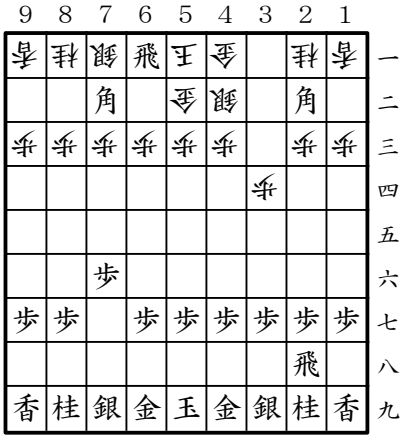
【ルール】

•推理将棋
将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【解答】

<u>一郎：</u>
76 歩 34 歩 22 角生 52 金右 61 角 72 飛
同角生 42 銀 61 飛 まで 9 手

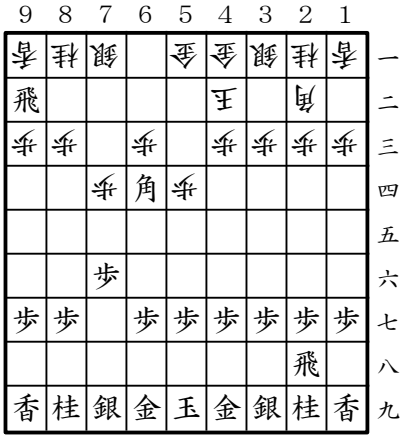
（詰上り）



持駒 なし

<u>二郎：</u>
76 歩 54 歩 55 角 74 歩 82 角生 42 玉
92 飛 51 金右 64 角生 まで 9 手

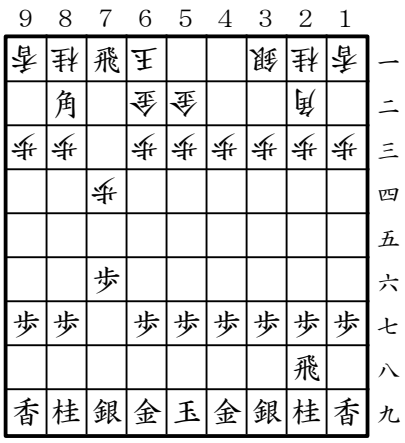
（詰上り）



持駒 なし

<u>三郎：</u>
76 歩 52 金左 55 角 74 歩 82 角生 62 金上
73 飛 61 玉 71 飛生 まで 9 手

（詰上り）

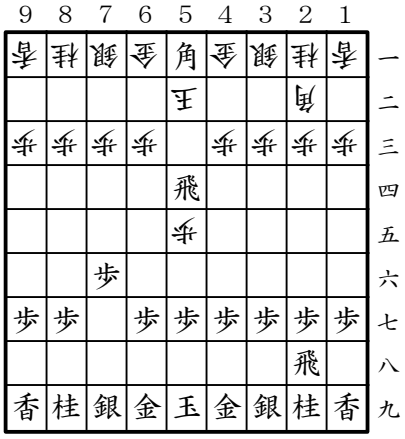


持駒 銀

四郎：

76 歩 62 飛 44 角 54 歩 62 角生 52 玉
51 角生 55 歩 54 飛 まで 9 手

（詰上り）



持駒 なし

【作者のコメント】

テーマは飛打ちのある９手詰のカルテットです。成りを許容すると無数に解があるのですが、「成る手なし」で絞れました。

個々の設問は一部には類似手順の発表作品もあります。（おそらくは２と４。ベテラン解答者にとっては２と４は秒殺かもしれません）一応、短編推理将棋では条件違えば別作品扱いが慣用ルールになってます。

余詰検討ですが、通常の作り方（作意解に合わせて条件付け）ではなく、上位条件に合う手順群から下位条件に絞り込んでいくやり方で作りましたので恐らく大丈夫（前提に抜けがなければですが）だと考えます。

【解説】

「飛打」「不成」「９手」で統一した４つの問題をセットにした推理将棋。飛を打つ段に応じて一郎から四郎の名前が付けられています。

飛を一段目や二段目に打てると詰め易いので、一郎と次郎は条件が四つ、三段目や四段目に飛を打つと詰める手段が限られてくるため条件が三つになっています。

この４題の中では一郎が一番難しい問題です。飛を打つため、まずは飛を取る必要がありますが、72 飛が元の角筋と違うため想定できないのです。条件 3)があることで、角を取らせ、その角で飛を取るという回りくどい手順が必要になり、それが 72 飛という妙手を成立させています。

二郎は推理将棋では有名な手順。両王手で鮮やかに詰むので、推理将棋に疎い筆者にも記憶がある手順です。

三郎はおそらく一郎の次に難しいと思います。飛を最終手で三段目に打つとか、三段目に置いたまま詰ますことに固執すると解けません。一旦三段目に置いた飛を一段目に動かすのがポイントです。この手順そのものの前例はないと思いますが、一段目の飛成で詰ませる類例はあります。居玉で金を上がった形は、飛成の王手で合駒なしの詰上りに持って行きやすいので、推理将棋では好んで使われます。

四郎も合駒なしの鮮やかな詰上りが印象的で、同様の詰上り（飛でなく香で詰める作だったかもしれません）を見たことがあります。ただ、解答者に予備知識がなかった場合は難問かもしれません。

本作は出題文も面白く、４題それぞれバラエティに富んだ手順で、推理将棋初心者からベテランまで楽しめる組局だったと思います。

【短評】

ミニベロさん

一郎

９手は全部知っているはずなのに、かなり考えました。秀作だと思います。

二郎

手順そのものは誰もが知っている「唯一の９手両王手」ですが、条件付けが巧みです。

三郎

この順は作品化する人が少ないので、あまり知られていないと思います。

四郎

これは推理将棋のプレゼン用に何度も使った順ですね。

４作とも充分楽しめたいい企画だと思います。

たくぼんさん
解けた順は、二郎→四郎→三郎→一郎。
一郎の 52 金右から 61 角が暗算で読み難い順でした。おなじみ手順でも演出次第で楽しめると感じました。

☆同じ手順でも条件を変えることで何度も楽しめるのは推理将棋の良い所ですね。でも、推理将棋がたくさん作られると「手順が同じで条件もそっくりな問題」が出てきても不思議ではないと思います。筆者は推理将棋に疎いので、類作の出題を防げる自信がありません。できれば推理将棋にもデータベースが欲しいところです。

変寝夢さん（※無解）
結局どれも解けませんでした。結果的に推理用 VM のテストになっちゃいました。

一郎
６１角~７２飛が完全に盲点。しびれました。
二郎
両王手ですか。時たま出てくるパターンでしたね。玉方の指し手に渋い好手が多いように見えました。
三郎
どんな作品が揃うかで、二郎になっていた可能性があったのでしょうか？
四郎
このタイプの詰め上がりは想像していたが、６筋で行うものかと思ってました。よく考えたら、置き駒で６１角なんか永遠に出来ないんですよね。

検索条件は、その他の条件として５手目飛取、９手の指し手のうち７手は４段目より上の手、と追加すると、後者の条件が強力だったようですぐ詰みましたが、時間が掛かるので全検はしていません。

私は長男が好みでしたね。

ＤＤ++さん
単純に段の順というだけでなく、兄ほど理詰め向きで弟ほど直感向きという順になっている。そこまで狙って作ったのだとしたら本当にすごい。

【総評】

ミニベロさん
一郎が面白かったので解答します。

☆冒頭にも書きましたが、本作品展で全問正解は至難の業なので、一題解答大歓迎です。また好みの問題があったら解答を宜しくお願いします。

たくぼんさん
66 回はいつもより難易度が低めで全体的に楽しめました。

変寝夢さん
今回も解答者数は少なそうな予感。
まぁ主たる原因は・・・・ごめんなさい。

ＤＤ++さん
正誤問わず５題以上解答できたのはいつ以来だろう。満足。

以上

推理将棋第８２回出題解説

担当：NAO

出題：　　平成 26 年 9 月 24 日
解答締切：　平成 26 年 10 月 20 日

担当２回目の出題で早くも余詰を出してしまいました。申し訳ありません。
一つでも解がわかってしまうとなかなか余詰は見つけられませんね。
とはいえ、今回の解答者２０名突破でホッとしてます。今後は検討力を鍛えていきますので解答も投稿もよろしくお願いします。

８２-１　初級　ＮＡＯ作
　端銀戦法　　９手

「さっきの将棋、不成の手があって９手で詰んだみたいだね」
「ああ、端に銀の手のある珍しい戦型だった。４２地点の着手が２回あったね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

（条件）

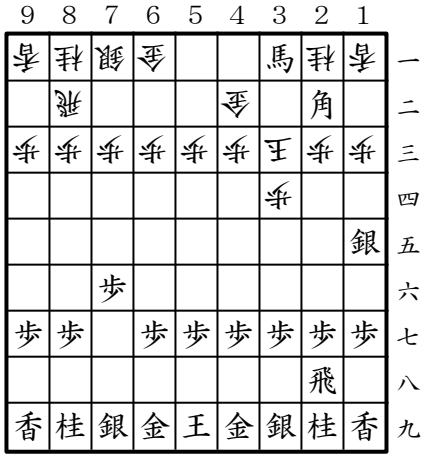
・９手で詰んだ
・端（１筋か９筋）に銀の着手があった
・４２地点に２回の着手があった
・不成の着手があった

出題のことば（担当　ＮＡＯ）
　端銀が現れる位置を推理しよう。
追加ヒント
　7 手目に端銀を打って王の逃げ道を塞ぎます。

推理将棋８２-１　解答

▲７六歩　△３四歩　▲２二角不成　△４二玉
▲３一角成　△３三玉　▲１五銀　△４二金
▲２二角　まで９手。

詰上り図



持駒　なし

９手詰で端銀が現れる手順は意外と限られています。
先手が銀を取って端に打つしかありませんが、銀を取ることができるのは最速でも５手目。そして、仮に端銀を詰みに関係ない無駄手にできるなら打場所は限定されませんが、９手詰となると「７手目に詰みと関係ない無駄銀を打つ」手順はありません。また、「９手目に端銀を打って詰ます」形もありません。

そこで、端銀を待ち駒にして玉の逃げ道を塞ぐ手順が浮かんできます。

・５手目銀を取った後、逃げ道封鎖に、７手目端銀を打つ
・９手で詰ますためにはもう１枚の駒を取る必要あるので、３手目に角を取る
他方、後手は端に近づきがら先手に協力します。

・２手目に角道を空ける
・４２地点経由で３３地点に玉移動する
ここまで手順を整理すると６手目まで
▲76 歩　△34 歩　▲22 角不成　△42 玉　▲31 角(*)　△33 玉　・・・

条件で残っているのは端銀の場所と２回目の４２地点着手。
まず 33 玉の退路封鎖のため 7 手目は▲15 銀打に決定です。９手目は 22 角打で詰みそうですが 82 飛の効きを消すのに 8 手目 42 金がぴったり。22 に不成で飛び込んだ角は 5 手目に成って 32 に馬の効きを残し、９手目角打ちまで。
それではみなさんの短評をどうぞ。

Pontamon 「4段玉に5段目端銀の直感は冴えず。5段目端銀は正解だったけど爽快な解後感半減。端桂戦法、端銀戦法の次は端金戦法かな？（予習しておこうっと）」

■一瞬でも4段玉を考えてもらうのが狙いの一つです。端金は9手では無理？
その代わり次回は端の手と金の手のある作品を出題します。

はなさかしろう「この3三玉を角二枚と銀一枚で上下から挟撃する形、どうも苦手でいつも最後まで思いつけません。また、４２地点２回が△４２銀▲同角成を誘っているようで、かなり悩ましい問題でした」

■９手でも解図力抜群のはなさかさんを悩ませることができました？

DD++ 「理詰め派だと、端銀と2枚で9手詰は無理なので、22角生31角成で3枚使うか端へ行くのは玉方銀かとすぐ絞れますね。で22角生同銀から読んだ元担当。無意識に読み抜けてそうなとこから始める癖が……」

■ひょっとして後手方の端銀を考えましたか。

斧間徳子 「不成の手と銀打ちがあることから、22角生～31角成だろうと思い、以下スラスラ解けました」

■一目でスラスラとは流石です。

飯山修 「一題解けるとホッとします」

■ホッとできるよう、できるだけ9手詰は毎月出していく方針です。

S.Kimura 「銀を42で取って，玉を右に追うことを予想しましたが，逆でした．2回目の42が，余詰防ぎだったとは・・・」

■同一地点2回着手の条件は、作者の想定外の推理を誘うことが多いんです。
82飛の効きを消すのに42地点限定がないと72,62金(銀),52金もありますね。

ミニベロ 「確か『9手で端に銀』はこの形だけだったよね」

■そのとおり。ただ、3手目と8手目の限定のために条件2つ追加しないと。

渡辺 「端に銀となれば33玉15銀しかないですね」

■９手詰データベースが頭に入っていますね、渡辺さん。

諏訪冬葉 「『31馬と35銀で挟撃できる』に気付いて調整したらできました」

■31馬と35銀あるいは31馬と35角の挟撃は、既往の作品がありました。

小山邦明「この条件で限定できているのがすばらしい」

■もう1条件減らせればよかったんですけどね。

隅の老人Ｂ 「端に銀？打つのだろうな、それなら先ずは銀を取らなくちゃ」

■ずばり推理通り進んだようで何よりです。

波多野賢太郎 「前回の『端桂戦法』に似ているなぁと思いながら考え始めたら苦戦しました。私の場合、銀を取って1五に打つのは突然閃きました」

■直感派は閃きが一番肝心。

はらたっと「端銀はさすがにムダ手ではありませんでした」

■前回端桂は無駄手でしたが、今回端銀は逃げ道封鎖の一手です。

たくぼん 「42地点2回着手条件がまさに好条件ですね」

■２回とも銀でないのがウケましたか。実は8手目の非限定をどう消すかだけなんです。
枡彰介「12か14に銀を置いて詰まそうとするが上手くいかず、ヒントを見てようやく銀は逃

げ道封じのための置き駒だと気づきました」

■一瞬でも１２や１４の銀打ちを考えていただけたらうれしいですね。

占魚亭　「金駒の使い方がポイント」

■逃げ道封鎖の１５銀と飛の横効きを消す４２金でした。

チャンプ「９手＋端銀の条件だけで２２角までの詰み上がりしか無いのが面白い。ただ、手順を限定するのに更に２条件必要だったのはやや残念か」

■詰形は一つ。だけどプラス２条件必要なんです。

正解：２１名
飯山修さん　S.Kimura さん　ＮＮＮさん　斧間徳子さん　加賀孝志さん　健太さん　孔明さん　小山邦明さん　隅の老人Ｂさん　諏訪冬葉さん　占魚亭さん　たくぼんさん　チャンプさん　DD++さん　波多野賢太郎さん　はなさかしろうさん　はらたっとさん　Pontamon さん　枡彰介さん　ミニベロさん　渡辺さん

８２-２　中級　Pontamon さん作
臆病な飛車（Ａ）　　１２手

甲「１２手詰のツイン作品を作ったんだけど、ちょっと見てくれないかな？」
乙「いいよ、どれどれ。手数以外に共通条件が二つだね」
甲「異なっている条件は、Ａ局は『持駒を打つ手はなかった』で、Ｂ局は『成る手はなくて、金取りに駒を打つ手があった』だよ」
乙「ツインだと裏読みされそうだけど、それは仕方ないね」
甲「共通条件の一つは“棋譜に‘同飛’が付く着手が不連続で３回”だけど、これがメインの条件なんだ」
乙「飛車以外の駒での‘同’は無いんだし、不連続で３回ってのは判りにくいね。単刀直入に書いた方がいいよ」
甲「じゃ、『棋譜上「同」の着手は「同飛」の付く着手３回だけで、４手目以降４手毎（４、８、１２手目）に指された』にするね」
乙「もう一つの共通条件の『飛車を取る機会はなく、飛車取りを掛ける手もなかった』はこの表現でいいと思うけど、この『蝶のように舞い、蜂のように刺す』ってタイトルは何だい？」
甲「後手飛車へ先手の攻撃が届かないイメージが合っていると思うんだけど...」
乙「僕に言わせりゃ、敵の射程外でコソコソしている臆病な飛車だね」
甲「甲乙つけ難いね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

（条件）
・１２手で詰んだ
・棋譜上「同」の着手は「同飛」の付く着手３回だけで、４手目以降４手毎（４、８、１２手目）に指された
・飛車を取る機会はなく、飛車取りを掛ける手もなかった
・持駒を打つ手はなかった

出題のことば（担当　ＮＡＯ）
　盤上の駒だけで詰む形を推理しよう。
追加ヒント
　とどめの１手は 78 同飛成。最後に銀を取って詰みます。

推理将棋８２-２　解答　　担当　ＮＡＯ
▲７六歩　△３二飛　▲３三角不成　△同　飛
▲６八玉　△３五飛　▲７五歩　△同　飛
▲５九金左　△８八角成　▲７八銀　△同飛成
まで 12 手。

詰上り図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	一
									二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
									四
									五
									六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
	馬	龍	王				飛		八
香	桂			金	金	銀	桂	香	九

持駒 歩

４手毎同飛３回をテーマとした姉妹局の作品です。
△32 飛から▲33 角から 4 手目同飛は後手の飛車が活躍する最短ルートでお馴染みの手順ですが、4 手毎に同飛となると間に多様な手を織り込むことが可能です。8 手目同飛を挟んで 12 手目同飛と進み詰む形も多様で、最後の飛車位置は玉の右側の 39、上方の 56、左側の 79 などが浮かびますが、本局はどうでしょうか。

「飛車を取る機会はなく、飛車取りを掛ける手もなかった」「持駒を打つ手はなかった」これらの条件が厳しく、詰み筋がぐっと絞られます。

持駒を使えないとなると、12 手目の同飛で、飛車か龍の単騎詰が考えられます。4 手目同飛の導入からはてるま手筋が有力ですが、最後 39 同飛とするため 39 銀をどかす手ともう一度 39 に呼ぶ手が必要になります。持駒が打てれば 10 手目に角を打って詰む筋もありますが、本作では駒を打てず詰みません。また、7 筋側で最後 79 同飛とする筋は、初形 79 をどかした上先手の 79 着手が必要になり、玉の退路塞ぎの手数が足りません。

単騎の詰みが難しいそうなので盤上の駒を活用しましょう。使えそうなのは足の長い角だけですね。そして角の効きが届くのは 77 か 88。飛車を左辺に使う手順を考えましょう。後手から歩の効きに入る 6 手目 36 飛とは指せませんので、後手飛が 8 手目左辺に移動するには、75 歩同飛のルートしかありません。また、後手角を動かすことができるのは 10 手目。角は 75 飛の効きを塞がぬよう 88 に成ります。

整理すると
▲76 歩 △32 飛 ▲33 角不成 △同飛 ▲XXXX △35 飛
▲75 歩 △同飛 ▲XXXX △88 角成 ▲XXXX △同飛(成)まで

先手の５,９,１１手目が未定ですが、どうするか。

・88 銀、XXXX、79 金。最後同飛成の"はてるま手筋"があります。88 銀も角で取れますが、残り 1 手で玉の退路(58,48)を防ぐことができません。

・68 玉、XXXX、78XX。68 玉に 78 飛成とすれば詰形ができますね。玉の退路(59)は 69 が寄る 59 金左がぴったり。
よって５手目以降▲68 玉 △35 飛 ▲75 歩 △同飛 ▲59 金左 △88 角成 ▲78 銀 △同飛成まで。

それではみなさんの短評をどうぞ。

Pontamon（作者） 「気付かれた方も居ると思いますが、この A 局は 80-3 の条件と同じく、飛車の 1～5 マス移動一度ずつなんです。もし、飛車の着手 5 回の私の作品が採用されたら、1～5 マス移動がヒントになるかも。(と先入観を植え付けておいて裏をかく。笑)」

■なるほど、飛の動きは、82→32(5 マス)→33(１マス)→35(２マス)→75(４マス)→78(３マス)移動ですね。気がつきませんでした。飛５回移動の新作できましたら投稿をよろしく。

はなさかしろう「条件が頭に馴染むまで時間がかかりましたが、駒打ちなしとなれば 5 手目を除く 8 手目まではこれが本線。その後はいろいろありそうに見えて、意外なほど収束しました」「(再解答時)はずかしながら再提出します。いや一参りました。3 手目が成生非限定かと思い、一旦解答してしまいましたが、なるほど、成ると飛車取りをかけてしまうんですね。恥ずかしい… やられた感で一杯です」

■３手目で躓きましたか。飛車取りを掛けない手で不成限定とは意表を突かれましたね。

DD++ 「飛取りなしが 33 角生だけじゃなく最終手 39 同飛生も決めていてかっこいい！という作品かと思ったら大ハズレでした。もう片方との対比性もいまいち見えませんし、厳しいようですがこちらは 82-3 の価値を下げただけなのではという気も」

■"甲乙つけがたい"姉妹局のつもりでしたが、好みで評価が分かれました。A 局の方が条件が少ないんですけど、DD++さんのお好みはすぱっとした切れのあるフィニッシュですね。

斧間徳子 「35 飛～75 同飛は第一感だが、最終手は 77 同飛成か 79 同飛成と思ったのが外れ。

88 角成～78 同飛成は推理将棋らしくない手順で、浮かびにくかった」

■いかにも俗手で、推理将棋慣れしている上級者にはかえって読みづらい手順でした。

孔明 「ヒントでようやくわかりました」

■最終 78 は、思考の外にあるときが多いんです。

飯山修「飛の条件が先手でも適用されるなら先手の飛は使えないので左側でやるしかないんですね」

■先手の飛車に取りがかかる筋がある、きわどい手順もありました。

S.Kimura「8 手目で 75 の歩を取らせれば良いことに気付いたのですが, 12 手目で玉を詰ます形にするのに手こずりました」

■5,9,11 手と先手が３手も指せるのに意外と見えにくいんです。

ミニベロ 「両王手、あるいは３７・７７が相当な紛れ順で、どうしても１手足りない。実質２問とも８手なのにそこそこ難問」

■作意は、最終手が意外性のある俗手でした。

渡辺 「同の付く手は[４の倍数]手目の同飛のみというのは使えそうな条件ですね。手順前後を自然に防いでいるのが良いと思います。これで長編が作れないかなぁ。22 角成、同飛だとその後飛が活躍できないので最初の４手は決っているのもとっつきやすい」

■渡辺さんの長編作品をぜひ拝見したいですね。

諏訪冬葉 「最初 4 手は確定。6 手目を確定させるためには 8 手目は横移動しかないと思って 7 筋からの進入にいたりました」

■ずばり読みが的中しました。

小山邦明「7 筋から飛が飛び込むのが好手順でした」

■７筋とわかってからも悩みますが。

隅の老人Ｂ「4 手目まではこれしかない。さて、後の 8 手を考えましょう」

■３方向どちらから攻めましょうか。

波多野賢太郎 「難しそうに思いましたが、4 手目まではほぼ絶対なんですね。しかし、その後は両王手や合駒なしなど難しく考え過ぎて苦戦しました」

■いえいえ、両王手や合駒なしから読み始めることができれば、上級者ですよ。

はらたっと 「３３角生が非限定と思ったら、飛を取ろうとする手でダメだった！」

■そのとおり。意外なところに落とし穴がありました。

たくぼん「成と生が自然に限定されているように感じられるのが美しい」

■条件文に成と不成が入ってないのがポイントの一つ。

占魚亭 「実は最初、単騎詰だと思っていました（79 同飛成まで)」

■79 同飛成と指すためには、初形の 79 銀が邪魔でわずかに手が足らないですね。

チャンプ 「良く作り込まれてはいるものの、これは単体の方が良かった。私見ではツインにしたことで逆に評価が下がった印象があります」

■どちらも単独で完成品なので、個別出題がよかったか。チャンプさんには、少ない条件でまとまったＡ局に高評価をいただきました。

正解：１９名

飯山修さん　S.Kimura さん　ＮＮＮさん　斧間徳子さん　加賀孝志さん　孔明さん　小山邦明さん　隅の老人Ｂさん　諏訪冬葉さん

占魚亭さん　たくぼんさん　チャンプさん　DD++さん　波多野賢太郎さん　はなさかしろうさん　はらたっとさん　Pontamon さん　ミニベロさん　渡辺さん

８２-３　中級　Pontamon さん作
臆病な飛車（Ｂ）　　１２手

甲「１２手詰のツイン作品を作ったんだけど、ちょっと見てくれないかな？」
乙「いいよ、どれどれ。手数以外に共通条件が二つだね」
甲「異なっている条件は、Ａ局は『持駒を打つ手はなかった』で、Ｂ局は『成る手はなくて、金取りに駒を打つ手があった』だよ」
乙「ツインだと裏読みされそうだけど、それは仕方ないね」
甲「共通条件の一つは“棋譜に‘同飛’が付く着手が不連続で３回”だけど、これがメインの条件なんだ」
乙「飛車以外の駒での‘同’は無いんだし、不連続で３回ってのは判りにくいね。単刀直入に書いた方がいいよ」
甲「じゃ、『棋譜上「同」の着手は「同飛」の付く着手３回だけで、４手目以降４手毎（４、８、１２手目）に指された』にするね」
乙「もう一つの共通条件の『飛車を取る機会はなく、飛車取りを掛ける手もなかった』はこの表現でいいと思うけど、この『蝶のように舞い、蜂のように刺す』ってタイトルは何だい？」
甲「後手飛車へ先手の攻撃が届かないイメージが合っていると思うんだけど...」
乙「僕に言わせりゃ、敵の射程外でコソコソしている臆病な飛車だね」
甲「甲乙つけ難いね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

（条件）

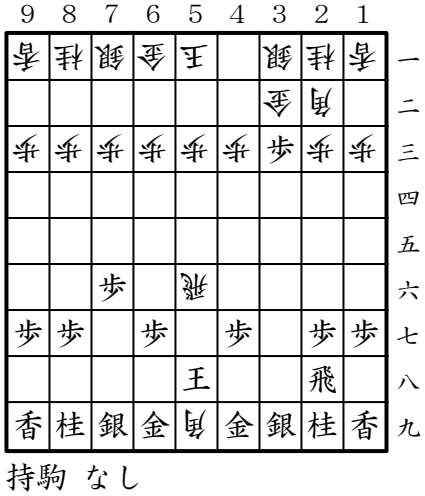
・１２手で詰んだ
・棋譜上「同」の着手は「同飛」の付く着手３回だけで、４手目以降４手毎（４、８、１２手目）に指された
・飛車を取る機会はなく、飛車取りを掛ける手もなかった
・金取りに駒を打つ手があった
・成る手はなかった

出題のことば（担当　ＮＡＯ）
　詰み形を作るための金取りの手を推理しよう。
追加ヒント
　とどめの１手は 56 同飛。合駒があると詰まないのでご注意を。

修正
　『金取りを掛ける』→『金取りに駒を打つ』に修正

推理将棋８２-３　解答　　担当　ＮＡＯ
▲７六歩　△３二飛　▲３三角不成　△同　飛
▲５八玉　△３二金　▲３六歩　△同　飛
▲３三歩　△５九角　▲５六歩　△同　飛
まで 12 手。

詰上り図



４手毎同飛３回をテーマとした姉妹局の２局目。Ａ局が 78 同飛成まで先手玉の左側からの王手で詰み上がりましたが、Ｂ局ではどの方向からの王手でしょうか。

４手毎同飛３回の着手で詰む形ですが、四方からの王手が考えられます。前問の解説では最後の飛車位置は玉の右側の 39、上方の 56、左側の 79 などと述べましたが、具体的な手順は次の通りです。

１）最終手 38 同飛
▲76 歩　△32 飛　▲33 角不成　△同飛　▲46 歩　△14(25)角

▲36 歩　△同飛▲58 玉　△77 角不成 ▲38 銀 △同飛不成まで

ＮＮＮさんに指摘いただいた手順でした。14 角が「金取りに駒を打つ手」であり、本作の条件と合致するようですが、最終手の両王手が先手の飛車取りになっているので本作の条件とはきわどく外れています。

２）最終手 39 同飛
▲76 歩　△32 飛　▲33 角不成 △同飛　▲68 金　△69 角
▲36 歩　△同飛　▲38 銀　△同飛不成　▲39 金 △同飛不成まで

はてるま手筋の応用ですが、これは 10 手目が「飛車を取る機会がなく」「飛車取りを掛ける手もなかった」の双方とも満たしておりません。また「同飛」が４回です。

３）最終手 46 同飛
▲76 歩　△32 飛　▲33 角不成 △同飛　▲58 玉　△14(25)角
▲36 歩　△同飛　▲38 歩　△77 角不成 ▲46 歩　△同飛まで

実は、これが修正前の「金取りを掛ける」での余詰手順です。最終手は開き王手ですが、王手金取り（角の筋で王手、飛車で金取り）にもなってました。
5 手目 58 玉が、次の 14 角が金取りになるのを妨げているので発見しづらい手順です。ご指摘いただいた渡辺さん､ありがとうございました。

４）最終手 49 同飛
▲76歩　△32飛　▲33角不成 △同飛 ▲48金 △58 角
▲36 歩　△同飛　▲68 金　△39 飛不成 ▲49 金 △同飛成まで

きわどいですが、成る手なしの条件は外れてます。

５）最終手 56 同飛
▲76歩　△32飛　▲33角不成 △同飛 ▲58玉 △59 角
▲36歩　△同飛　▲XXXX　△XXXX　▲56歩 △同飛

飛と角のサンドイッチの詰形です。この筋では最後先手に持駒に歩があると 57 歩合ができますで、予め持駒を打ち切っておく必要があります。

６）最終手 59 同飛
▲76 歩　△32 飛　▲33 角不成 △同飛▲58 玉 △15(26)角
▲36 歩　△同飛　▲68 金　△39 飛不成 ▲59 金　△同飛不成

波多野さんに指摘いただいた参考手順です。これは 10 手目△39 飛不成が 49 金の効きに入り 11 手目に飛車を取ることができるので「飛車を取る機会がなく」を満たしておりません。

７）最終手 78 同飛
▲76 歩　△32 飛　▲33 角不成△同飛▲68 玉 △35 飛
▲75 歩　△同飛　▲59 金左△88 角成▲78 銀 △同飛成

８２－２Ａ局です。48 角を打った後 78 同飛成で詰む筋もあります。

この他にも詰形があるかもしれませんが省略します。

さて、本問は、金取りに角を打つ手が４）に示したようにかなり際どく条件を外れています。そこで、無駄手を織り込む余裕のある上記５）を本線に進めることとします。

▲76歩　△32飛　▲33角不成 △同飛 ▲58玉 △59 角　▲36 歩　△同飛
▲XXXX　△XXXX　▲56 歩　△同飛（手順前後あり）

この手順は４手毎同飛のほか、以下の３条件を満たさないといけません。
・飛車を取る機会はなく、飛車取りを掛ける手もなかった
・金取りに駒を打つ手があった
・成る手はなかった
また、合駒に使えないように予め持歩を打ち切っておく必要があります。

すなわち
○先手は３筋に歩を打つ（飛の動きをさまたげないよう）
○金取りに駒を打つ
これらを両立する手順を考えましょう。先手が金取りに歩を打てれば一石二鳥ですね。先手が歩を打てるタイミングは、5 手目か 9 手目ですが、5 手目は金取りにならないので、6 手目に金を 32 金に運び、9 手目に金取りの▲33 歩打が可能となります。手順を再掲します。

▲76 歩　△32 飛　▲33 角不成 △同飛 ▲58 玉 △32 金　▲36 歩　△同飛
▲33 歩打 △59 角　▲56 歩　△同飛まで

上方向からの合効かずの王手が決まりました。

２問を姉妹局として出題しましたが、個々の評価は分かれました。ツインとしては条件/手順ともに対比性が乏しく、結果として二つ並べることでもう一方の評価を下げる印象を与えてしまいました。２問とも単独作品とし立派に成立しているので、１問づつ出題月を分けての出題がよかったかもしれません。

それではみなさんの短評をどうぞ。

Pontamon（作者）　「80-3,82-2 までの 3 局が後手飛 5 回着手なので、この B 局も飛の着手 5 回で、飛か持ち駒の角で金取りを掛けると予想するとハマってしまいます。4 手目同飛なので初手～4 手は確定で 実質 8 手詰。角を持っていて飛との連携なら、この詰み形を予想してサクっと解かれた方が多いと思います」
「(修正時)いつか来る日があると思っていた余詰み作品。作意とは 6 手目と 10 手目を入れ替えたバージョンで『金取りを掛ける手は無かったが、金を取る機会はあった』の条件の方が良かったですね。この禅問答みたいな文よりは、短くて簡潔な方にして失敗しました」

■担当の検討も力不足で失礼しました。どちらがよいか迷いましたが金取りの手の表現がシンプルすぎて抜けがありましたね。禅問答みたいな文も面白いですけど、解答者のウケはよくないでしょうから。

はなさかしろう 「6 手目に角を打ち、飛車で水平方向から詰ます形が本命でしたが、玉方の手数不足で断念。垂直型にすると玉まわりが 1 手で済み、9 手目の歩の位置と金条件の処理が一度に決まって解後感の良い問題でした。」

■余詰の筋がなければ面白い

DD++ 「なるほど、金取り。歩捨て位置を限定し無駄手も消化しつつミスディレクション、この条件は上手い。欲を言えば飛取りなしだけで 33 角は生限定なのに成なしがダブっているところをスマートに済ませられれば完璧でした」

■成なし条件のダブリはちょっと気になりますね。

斧間徳子 「既成の詰上りも、『金取りを掛ける手があった』という絶妙の条件付けに感心」

■『金取りに駒を打つ』が必要でした。

孔明「合い駒が利かないようにする手が難しかったです」

■歩を使うことがすぐ浮かべば上級者。

飯山修「持駒が使えるなら例の手筋とすぐ思ったが金取りと５７歩合に悩まされた。両方解決するのはうれしい」

■例の手筋と金取りの歩打ちなんです。

S.Kimura 「3 筋からの単騎詰や両王手を考えていたため苦戦していましたが，玉を角と飛車で挟む形を，突然，思い出し，56 歩が見えました。角を打つとばかり思っていた 6 手目が手待ちだったとは唖然としました」

■ワンテンポずらすのがポイントです。

ミニベロ「こちらはすぐに見えたが、手順限定・待ち手・歩の消費を兼ねた条件が旨い。センスのいい作者だけに、次はもう少しエレガントな条件で作って欲しい」

■できれば成る手なしのダブり１条件を減らしたかった。

渡辺 「最初に 76 歩、32 飛、33 角生、同飛、68 玉、58 角、36 歩、同飛、59 金左、69 角生、66 歩、同飛という手順を思いつき、先手が 3 筋に歩を打つ暇がないなぁ、となっていたのですが、角で金取りするのを諦めて素直に 59 角と打つことにすれば先手も後手も 1 手余ってくるので金取りを作れる訳ですね」

■66 同飛の筋、面白そうですね。歩の消費と 77 の塞ぎをどうしましょうか。

諏訪冬葉「条件は満たしているはずだけど何か不安な回答です。金取りは角打ちでかけるものだと思っていました」

■角打ちの金取りはきわどい筋です。

小山邦明 「合駒をなくすための 33 歩打が絶妙手でした」

■限定の一打が決まりました。

隅の老人Ｂ 「『金取りに駒を打つ手がありました』、先手 or 後手、どちらかな？」

■後手と思わせて先手でした。

波多野賢太郎 「 この手順は締切前ヒントを見てやっと閃きました。「金取りを掛ける手」がずっと先手の金に対してだと思い込んでいたのが原因で、最初に思いついたのは、(５手目より)５八玉、２六角(１五角)、３六歩、同飛、６八金、３九飛不成、５九金、同飛不成まで、でした。一応条件は満たしてるのかなとは思いつつ、角打ちが非限定だし、『敵の射程外でこそこそしてる飛車』には合ってない気がして悩みました。もしかしてこれが余詰ってことでしょうか？」

■１２手目同飛で玉の下から詰ます筋もありましたね。ご指摘の手順はきわどい筋ですが、３９飛不成の直後が「飛を取る機会」にあたりますので条件外れており、余詰ではありません。

はらたっと「ツインのどちらかは『はてるま筋』と決め打ちしたのが大ハマリ。ヒントで救われました」

■はてるま筋も有力ですが、３９銀を取る筋は金取りの一手が入りません。もう一つの筋は初形７９銀が邪魔で手数が足らないんです。

ＮＮＮ 「この問題については、飛を取る機会がなかったという条件ならこういうのもありではないでしょうか？最終手の飛車当たりは次の手がないので、取る機会はないといえるのでは？５手目から４六歩 １四角（２五角）３六歩 同飛 ５八玉 ７七角不成 ３八銀 同飛不成」

■締め切り日にこの指摘をいただいてまだ余詰が残っているのかとたいへん焦りました。確かに３８同飛不成は最終手の両王手なので「飛を取る機会」はないのですが、「(先手の)飛車取りを掛ける手」でもあるので条件を満たしておらず、余詰ではありません。

たくぼん 「32 金が絶妙のタイミングです。でも余詰が分からないのがちょっと悔しい」

■ちょっとわからない筋（最終手 46 同飛が王手金取り）でした。

占魚亭 「ギリギリまで考えましたが、条件に合う手順を見つけられず。無念」

■無解でも感想いただけるとありがたいです。

チャンプ 「詰み上がりの形が先手なら９手、後手なら１０手で可能なだけに完全な無駄手を加えてまで形にする必要性は無かったと思います」

■ダブり条件が増えた分、ちょっと損しました。

正解：１８名　　双方解：渡辺さん
飯山修さん　S.Kimura さん　ＮＮＮさん　斧間徳子さん　加賀孝志さん　孔明さん　小山邦明さん　隅の老人Ｂさん　諏訪冬葉さん　たくぼんさん　チャンプさん　DD++さん　波多野賢太郎さん　はなさかしろうさん　はらたっとさん　Pontamon さん　ミニベロさん　渡辺さん

総評

Pontamon 「最近、短手数の作品を作っていますが、相変わらず条件文はヘタクソなのに 82-3

では背伸びして短い文の方を採用した結果の余詰み作品。
そのヘタクソな条件文の書き方を逆手に取った作品を作って投稿したのですが、今回の余詰みがあったので果たして採用されるかどうか...」

■Pontamon さんの投稿作にはセンスを感じるモノも多くあります。なかなか検討が追いついてません。

はなさかしろう「中級に誤答のご指摘をいただき、飛び上がりました。大急ぎで回答し直したのですが… なるほど､解手順は中級も上級も成生が自然限定されているのですね。上級の成なし条件は△角打ち～△５七角成～△３九同飛不成の筋を消すためでしょうか。条件付けは好みの分かれるところで、個人的にはもう少し軽くて素っ気ない方が好きなので、あれこれ考えてみました。・・・二解は普段は狙っても作れない憧れの的なのですが…」

■はなさかさんの参考作品がこちら。

・１２手で詰んだ（手順が二通り）
・４、８、１２手目は飛車による同の手
・飛車を取る機会はなく、飛車取りを掛ける手もなかった
・銀の腹（隣接する真横の地点）への着手があった
（担当も未検討で解答募集もしませんが気になる方は挑戦ください）

DD++ 「82-3 は 12 手の合い効かずでミスディレクション入りなので合わせ技上級でよかった気がします。とはいうものの難度振り分けって難しいんですよね」

■４手毎同飛がわかっているので中級としましたが、大駒絡みで１２手だと手も広いですね。余詰検討も難しく、上級とすべきでした。

孔明 「はじめまして(のはず)、孔明です。十年ほど前におもちゃ箱を PC から見てたような気がします(今は携帯からだけですが…)推理将棋が解けたのでメールします」

■今後ともよろしくお願いします。

飯山修「詰パラの推理将棋が難しいので解けたものは早めに送ってそちらに集中します」

■詰工房で話題にしていた詰パラ１０月号の３問目。難問ですね。

加賀孝志 「推理解答送らせていただきます。ヒントを読みながらの回答です」

■加賀さん解答ありがとうございます。これからはメールでお願いしますね。

ミニベロ 「今回作のことではないが、余詰順に条件をつけて『ツイン』というのは安易。優れた作品ならば、独立して存在してもいい」

■二作並べたことで各々互いの評価を下げたコメントもありました。担当の責任ですが、今回は２作品ともそれぞれ単独で作品とした方がよかった。

渡辺 「後半２問の頭４手が決定していたので、今回はとっつきやすかったです」

■１２手とはいえ、実質８手ですから。

隅の老人Ｂ 「13 日、台風来る。家に閉じ込められて推理将棋を考える。
14 日の早朝､嵐の去った秋空を眺めながらの解答書き。
さて、この後は何をしようかな、Ｂ爺さんは今日も暇」

■大型台風のダブルパンチ。担当は雨漏りと戦いました。

波多野賢太郎 「今回は８２-３で相当頭を使い、それが楽しかったです。私はやっぱり直感派だなぁと思います。直感だけでは解ける問題にも限界があると思うので、少しずつ理詰めでも考えられるようにしたいと思います」

■すぱっと解けると気分爽快。

はらたっと 「今月は会議中に・ヒラメキ・会社の決算書に棋譜を落書きしました」

■会議中にアイデアが閃くのは･･･当然です。

ＮＮＮ「はじめまして。いつも楽しみに解いている者です。解答を送るのは初めてです」

■今後ともよろしくお願いします。

たくぼん「時間が余り無いのでヒントに助けられてます。本当はヒントなしでいかないといけませんね」

■ヒント待ちは必勝定跡です。

枡彰介 「NAO さんの担当になってから初めて解答します。1 問でも解けたら送りたいと思いますので、よろしくお願いします」

■１問でもゼロ問でもＯＫです。解けなかったときは感想だけでもお寄せください。

占魚亭「今月も締め切り後の送信になってしまいました。すみません」

■受信は 21 日の 0:08。20 日の 24:08 ですのでギリギリセーフとしておきましょう。

チャンプ「そろそろ羊の時期が迫ってきましたね。また何か捻り出して取り組むことにします(笑)」

■年賀詰の季節になりました。面白い作品を期待してます。

推理将棋第８２回出題全解答者：　２１名
飯山修さん　S.Kimura さん　ＮＮＮさん　斧間徳子さん　加賀孝志さん　健太さん　孔明さん　小山邦明さん　隅の老人Ｂさん　諏訪冬葉さん　占魚亭さん　たくぼんさん　チャンプさん　DD++さん　波多野賢太郎さん　はなさかしろうさん　はらたっとさん　Pontamon さん　枡彰介さん　ミニベロさん　渡辺さん

禁欲ばか詰作品展

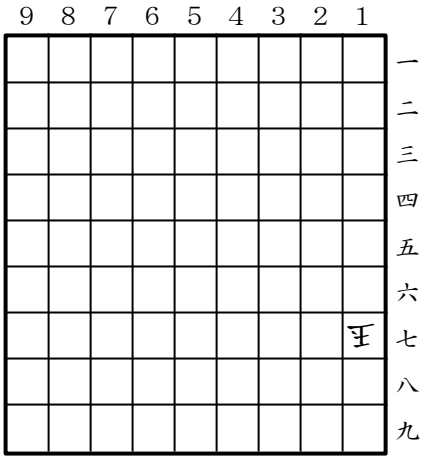
たくぼん

期間が短いためか投稿作も少なく、また解答者数も３名とイマイチ盛り上がりませんでした。ルールに魅力が無かったのか・・・とちょっと肩を落としております。氾濫でリベンジだ！

解答者：上谷直希、橋本孝治、占魚亭
（全員全題正解）

【禁欲】
攻方は駒を取らない王手があれば、その手を選択しなければならない。受方は駒を取らない王手回避があれば、その手を選択しなければならない。

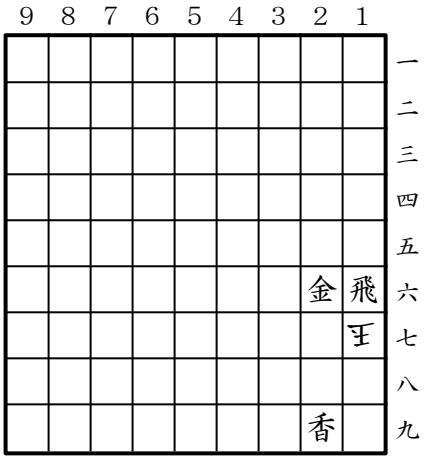
１番　上谷直希作
禁欲ばか詰　１１手



持駒 金香

28 金 26 玉 37 金 25 玉 29 香 26 飛
36 金 16 玉 26 金 17 玉 16 飛 迄 11 手

詰上図



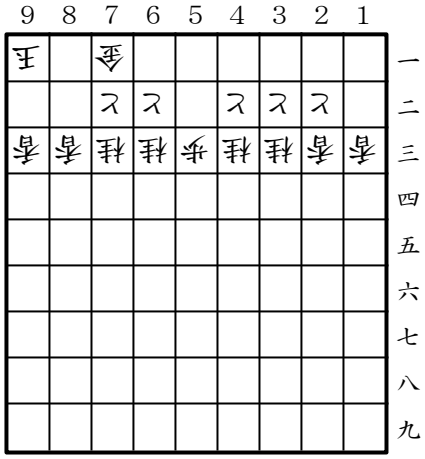
持駒 なし

★　１番は上谷さんの禁欲ばか詰の裸玉。禁欲では持駒を持っている場合は合駒をなかなかすぐに取ることが出来ないため、普通のばか詰より手数が掛かります。本作も普通のばか詰だと７手（解は多数あり）ですが禁欲では 11 手で１解となります。２番でも出てきますが禁欲ルールで頻繁に出てくる駒の取り方が金の横移動型です。（▲36 金、△26○、△16 玉の形で 26 金）この形を覚えておけば禁欲は怖くありません。本作も攻方が持駒の金を先に使って駒を取る形を作り、香打～合駒～合駒を取るという効率の良い手順を見せてくれます。29 香の遠打も花を添えていますね。

橋本孝治
小さな香の遠打。実は「WFP 作品展」に同じ素材を使った作品の投稿があり、作者に連絡してボツにして貰いました。簡素図の衝突の危険が高いのは、どのルールでも同じですね。

占魚亭
入門向けとしては、これくらいが丁度いいですね。

２番　たくぼん作
禁欲ばか詰　９３手

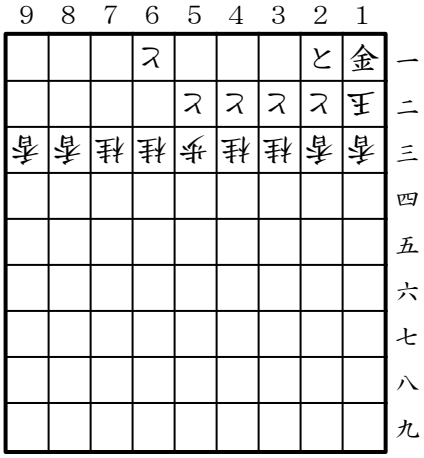


持駒 歩12

92 歩 81 玉 82 歩 同金 91 歩成 71 玉
81 と 61 玉 71 と 51 玉 52 歩 41 玉
51 歩成 31 玉 41 と 21 玉 31 と 11 玉
21 と 12 玉 11 と 同玉 12 歩 21 玉
11 歩成 31 玉 21 と 41 玉 31 と 51 玉
52 歩 同と右 41 と 62 玉 61 と 同玉
62 歩 71 玉 61 歩成 81 玉 71 と 91 玉
92 歩 同金 81 と 同玉 82 歩 71 玉
81 歩成 61 玉 62 歩 同と右 51 と 72 玉

71 と 82 玉 72 と 91 玉 82 と 同金
92 歩 81 玉 91 歩成 71 玉 72 歩 同金
81 と 同玉 82 歩 91 玉 81 歩成 92 玉
91 と 82 玉 92 と 71 玉 61 と 同と
82 と 62 玉 72 と 51 玉 62 と 41 玉
51 と 31 玉 41 と 21 玉 31 と 11 玉
21 と 12 玉 11 金 迄 93 手

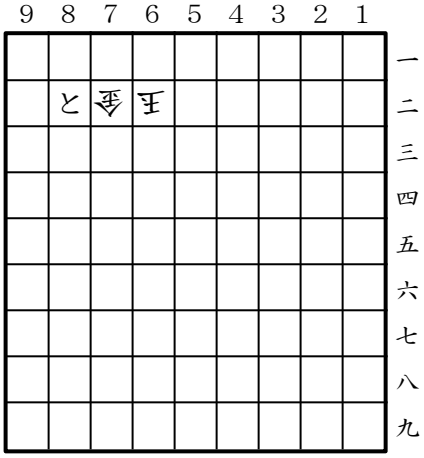
詰上図



持駒 なし

１番でも登場した駒の取り方を本作も目指します。初形から金を 82→72 と移動させるのが当面の目標になります。

金の取り方の図

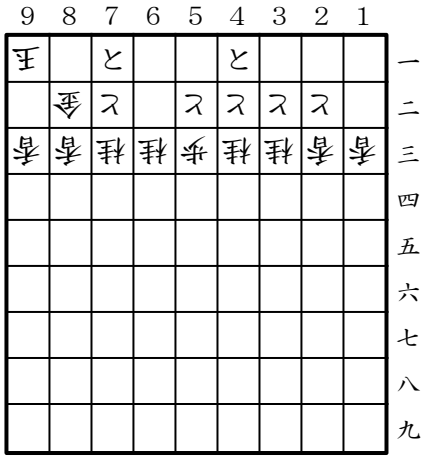


持駒 なし

この局面を目指します。

初手 92 歩から邪魔な金を 82 へ移動させ、右に追います。とりあえず 52 歩で 62 と金を 52 へ移動させ進みます。ここまでは流れでいけるはず。ターニングポイントとなるのが 42 手目の局面です。

42 手目の局面



持駒 歩6

普通に進めてみましょう。
43 手目より、
81 と 92 玉 91 と 同玉 92 歩 81 玉 91 歩成 71 玉 81 と 61 玉 62 歩 同と右 51 と 72 玉 71 と 同玉 72 歩 81 玉 71 歩成 91 玉 81 と 92 玉 91 と 同玉 92 歩 81 玉 91 歩成 71 玉 72 歩 同金 81 と 同玉 82 歩 91 玉 81 歩成 92 玉 91 と 82 玉 92 と 71 玉 61 と 同と 82 と 62 玉 72 と 51 玉 62 と 41 玉 51 と 31 玉 41 と 21 玉 31 と 11 玉 21 と 12 玉 11 金 迄 99 手

このように 52 と右と寄せたように同じような手順でと金を寄せていくと 99 手掛かってしまいます。金の取り方の図のように 82 金→72 金を実現するのに最短の手順は実は一旦 92 に金を移動しておくというちょっと意外な手順が正解手順です。

つまり 92 金としておくと 7 筋 8 筋に連続した空間を作り出すことが出来き、玉が短い移動で収束に必要な形を作り出すことが出来るのです。創作途中で見つけた偶然の産物でしたがちょっとした見所にはなったと思います。

上谷直希

窮屈な 72 と、62 とを横にスライドさせて、金を 72 に移動させスペースを確保するストーリー。だからこそ趣向的手順が想定されるが、同じ趣向を繰り返しながら追うと 6 手オーバー。ここからの短縮が難しかった。7 筋へ向かわせたい金を逆に追いやるような 41 手目 92 歩には驚愕。歩が案外カツカツなだけになおさらやりにくい。破調を含めて綺麗

にまとまった好作。

橋本孝治

散らばった空間を一ヶ所に集める「デフラグ」がテーマの作品。それだけに 43 手目 92 歩が感覚の逆を行く妙手でした。手順の非限定が生じやすい素材だと思いますが、よく纏めたと思います。

占魚亭

金を取るのにこんなに苦労するとは。苦戦しましたが、楽しませてもらいました。

【総評】

上谷直希

いつもお世話になっております。禁欲ばか詰作品展におきましては、ギリギリに投稿してしまってすみませんでした…。
お詫びといってはなんですが、解答を送らせていただきます。
さすがの好作で、解答していて楽しかったです。ありがとうございました。

★　いえいえ投稿期間内ですので全然問題ありません。私の早や走りでした。

橋本孝治

この場をお借りして宣伝を少々。
詰パラ 12 月号掲載の「氾濫 41」にはこのお二人の禁欲作品が登場します。ぜひご解答を！

★　私からもよろしくお願いします。自作は本作品展２番よりは難しいかなと思います。

占魚亭

試作してみたものの納得のいくものができず投稿できなかったので、解答で参加します。

★　試作ちょっと見たのですが面白い感覚と思いました。是非また WFP 作品展にでもお願いします。

フェアリー版くるくる作品展１

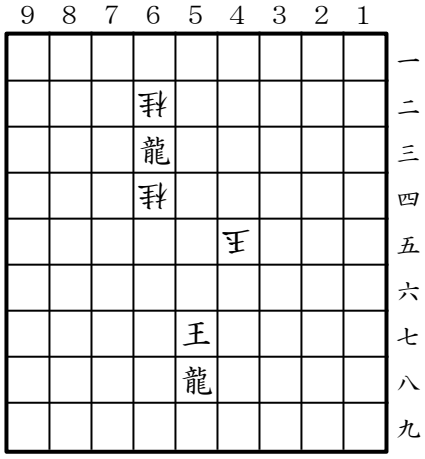
たくぼん

今号より投稿あり次第月２～３題出題で開催します。基本スタンスは「フェアリー（暗算でも解ける）やさしい趣向詰」です。投稿詳細は作品募集一覧をご覧下さい。

【ばか自殺ステイルメイト】
先後協力して後手玉に王手を掛けながら攻方を合法手のない状態にする

くるくる１

神無太郎作　ばか自殺ステイルメイト　８手

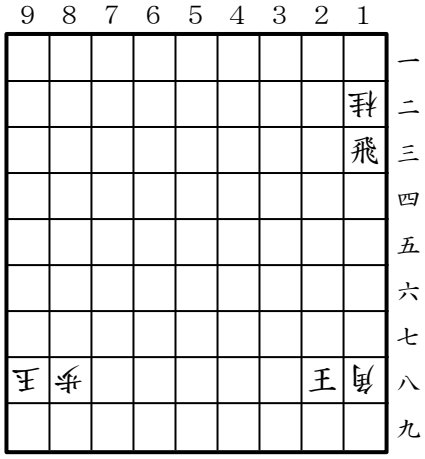


持駒 なし

くるくる２

神無太郎作　ばか自殺ステイルメイト１６手

ばか自殺ステイルメイト 16手



持駒 金4

【ヒント】
１：合駒は２回、先手王に王手が掛からない様
２：１がヒントになります。趣向的です。

解答送り先：takuji@dokidoki.ne.jp

締切：2014/12/15

解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

12 月 15 日(月)

第 67 回 WFP 作品展
フェアリー作品　１２題
推理将棋　　１題

Fairy of the Forest #41
協力詰　　４題

くるくる作品展 1
フェアリー作品　２題

2015 年 2 月 15 日(日)

第 67 回 WFP 作品展
フェアリー作品　９題
推理将棋　　１題

作品募集一覧

フェアリー版くるくる展示室

- 盤は９×９、駒は普通の将棋駒及び駒数内（フェアリー駒はとりあえず不可）
- 後手持駒制限 OK
- ルールは何でも OK（協力詰、かしこ詰、打歩詰、自玉詰系、ステイルメイトなど何でも OK）
- 手数制限なし

投稿先は、WFP 編集部
たくぼん　takuji@dokidoki.ne.jp

Fairy of the Forest #42 課題発表

■　2014 年 11 月 20 日：課題発表：(協力詰)
　角または銀が活躍する作品
□　2015 年 01 月 15 日：投稿締切
□　2015 年 01 月 20 日：出題
□　2015 年 02 月 15 日：解答締切
□　2015 年 02 月 20 日：結果発表

■　課題発表

この１年、「ＡまたはＢが活躍する」という駒シリーズで通してきました。馬 or 桂馬、飛 or 香、金 or と金、と来て、今回の角 or 銀でとりあえず最後にします。龍と王(攻方)については、いずれまた……。
　多くの方々のご投稿をお待ちしています。

（投稿先）
→酒井博久（sakai8kyuu@hotmail.com）

年賀詰作品展

　新年に向けての作品を募集します。お正月に解いて頂けるよう 12 月号に掲載します。ちなみに来年は羊年です。

　作品は、フェアリー作品、推理将棋とし、ルール、手数、条件は自由とします。

　投稿締切：12 月 15 日（月）
　投稿先は、
たくぼん(takuji@dokidoki.ne.jp)迄

【あとがき】
　Fairy of the Forest #41 が解答者が少なく解答期間延長になりました。1.2 の客寄せはともかく、3 はちょっと難解ですが解いて損のない作品、4 は手数は長いがキーとなる箇所は限られているので解き易いと思いますので怖がらずにチャレンジを、解ければきっと良い年が越せると思います。

たくぼん

2014 年　第 77 号
Web Fairy Paradise

非売品
平成二十六年十一月号
平成二十六年十一月廿日発行

発行所　愛媛県新居浜市
発行兼編集人　須川卓二
発行所　Web Fairy Paradise 編集部
問合先 takuji@dokidoki.ne.jp